



2020年10月期 決算説明会資料

2020年12月11日
株式会社エイチ・アイ・エス
東証1部:9603

1-1 決算概要 (連結)

連結業績サマリ

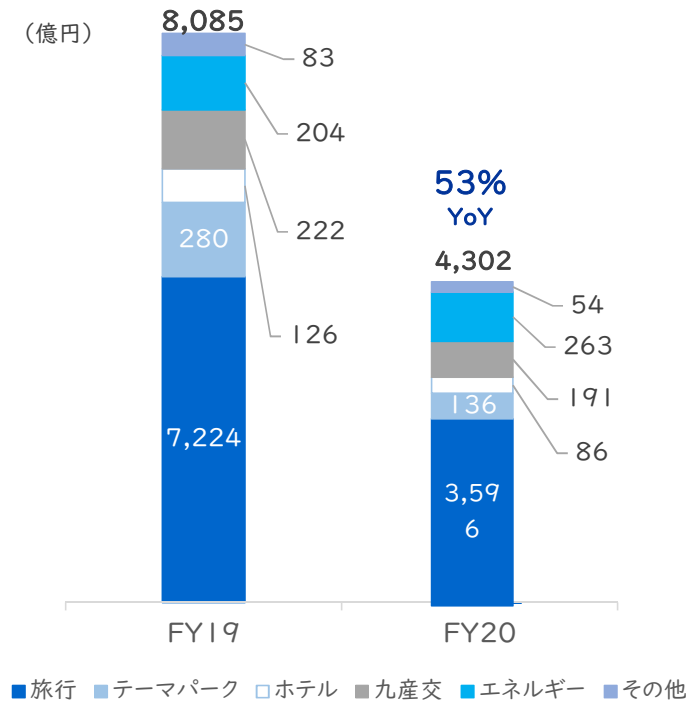
(百万円)	FY19	業績予想※	FY20	YoY	前期差	主な増減要因
売上高	808,510	424,000	430,284	53.2%	▲378,226	旅行 ▲362,832, テーマパーク ▲14,401, エネルギー 5,931
売上総利益	144,134		69,896	48.5%	▲74,238	
営業利益	17,540	▲36,700	▲31,129	-	▲48,670	旅行 ▲34,881, テーマパーク ▲8,469, エネルギー ▲811
EBITDA	27,263	▲23,100	▲17,888	-	▲45,152	
営業外収益	3,527		3,067	86.9%	▲460	
営業外費用	3,978		3,221	81.0%	▲757	
経常利益	17,089	▲36,000	▲31,283	-	▲48,373	
特別利益	4,140		11,055	267.0%	6,914	助成金収入 9,969
特別損失	877		12,873	1467.6%	11,996	臨時休業による損失 5,296 減損損失 5,320
税引前利益	20,352		▲33,101	-	▲53,454	
法人税等	6,477		▲3,457	-	▲9,935	
非支配株主に帰属する当期純利益	1,625		▲4,606	-	▲6,232	
親会社株主に帰属する当期純利益	12,249	▲31,800	▲25,037	-	▲37,287	

※ワーストケースを織り込んだ業績予想に対し、上振れて着地。

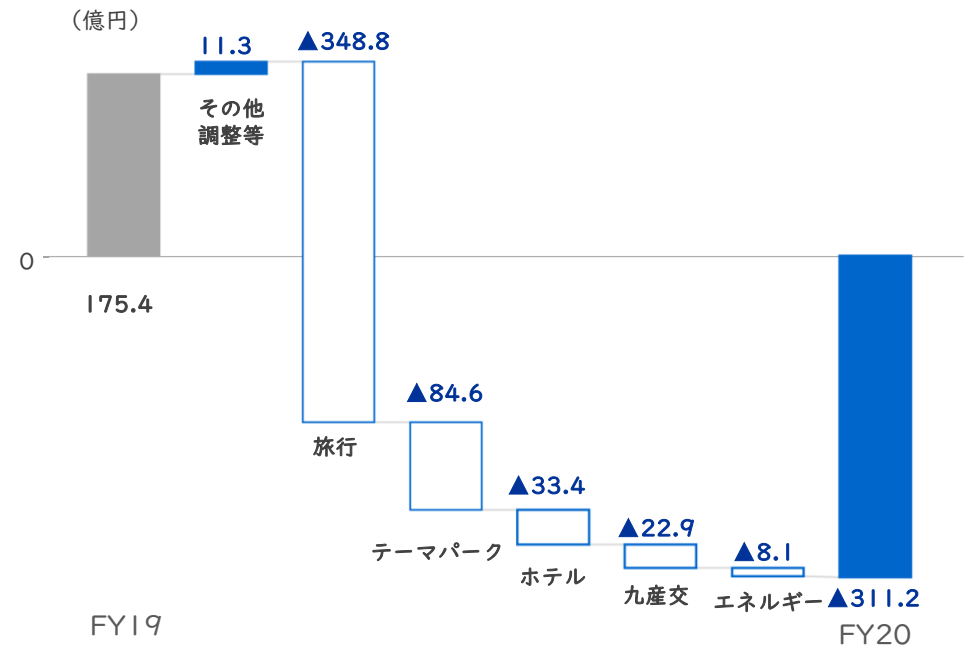
売上高・営業利益

- 売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による需要減少が継続し、大幅な減収で着地（YoY 53%）。
- 営業利益は、徹底したコスト削減等コロナ禍における対策を講じたものの、**311億円の営業損失**（486億円の減益）。

売上高の主な増減



営業利益の主な増減

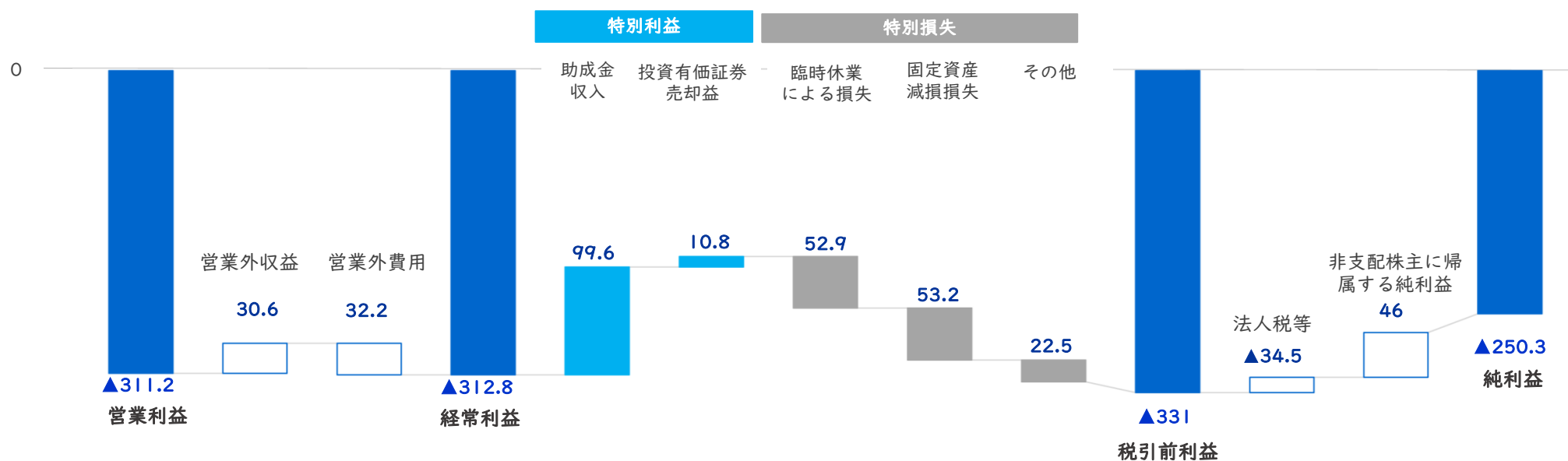


経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

- 経常利益は、為替差損の減少等で営業外費用は圧縮するも、営業利益の減少により**312億円の経常損失**（483億円の減益）。
- 助成金収入などによる**特別利益110億円**を計上した一方、**特別損失128億円**を計上し、**250億円の当期純損失**（372億円の減益）。

純利益までの主な増減

(億円)



連結B/S 前期末比

(百万円)

	FY19	FY20	増減
現金及び預金	219,175	95,234	▲123,941
受取手形及び売掛金	45,653	15,829	▲29,823
営業未収入金	4,287	345	▲3,941
旅行前払金	52,102	7,253	▲44,848
その他	27,061	20,560	▲6,501
流動資産計	348,280	139,223	▲209,056
有形固定資産	147,098	202,211	55,112
無形固定資産	19,271	16,595	▲2,675
のれん	7,305	5,227	▲2,078
投資その他資産	55,275	50,919	▲4,356
固定資産計	228,951	274,954	46,002
繰延資産計	168	426	258
資産合計	577,399	414,604	▲162,795

	FY19	FY20	増減
営業未払金	38,082	9,029	▲29,053
旅行前受金	92,760	14,021	▲78,738
社債・転換社債	55,090	45,072	▲10,017
長期借入金	146,403	149,605	3,202
その他	121,151	98,453	▲22,698
負債計	453,490	316,182	▲137,307
資本金	11,000	15,000	4,000
資本剰余金	3,392	7,450	4,058
利益剰余金	112,409	72,222	▲40,186
自己株式	▲28,309	▲15,204	13,104
その他の包括利益累計額	▲1,719	▲5,519	▲3,800
非支配株主持分	27,135	24,294	▲2,841
純資産計	123,909	98,421	▲25,487
負債・純資産合計	577,399	414,604	▲162,795

財政状態サマリ

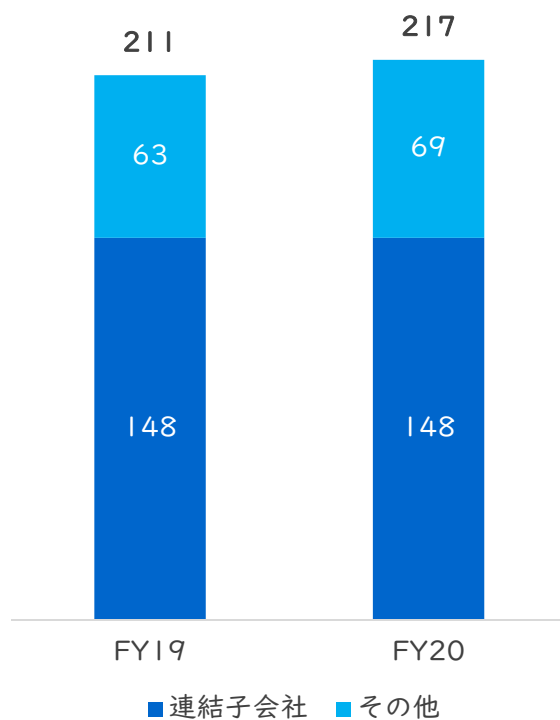
(百万円)	FY19	FY20	増減	前期比
総資産	577,399	414,604	▲162,795	71.8%
① 純資産	123,909	98,421	▲25,487	79.4%
自己資本	96,773	73,948	▲22,825	76.4%
自己資本比率(%)	16.8%	17.8%	1.0%	+1pt
有利子負債残高	245,946	233,027	▲12,918	94.8%
② 現金及び預金	219,175	95,234	▲123,941	43.5%
流動資産計	348,280	139,223	▲209,056	40.0%

① 純資産は前期より254億円減少し、984億円となりました。純資産の部の金額の75%以上を維持し、財務制限条項へは抵触せず。

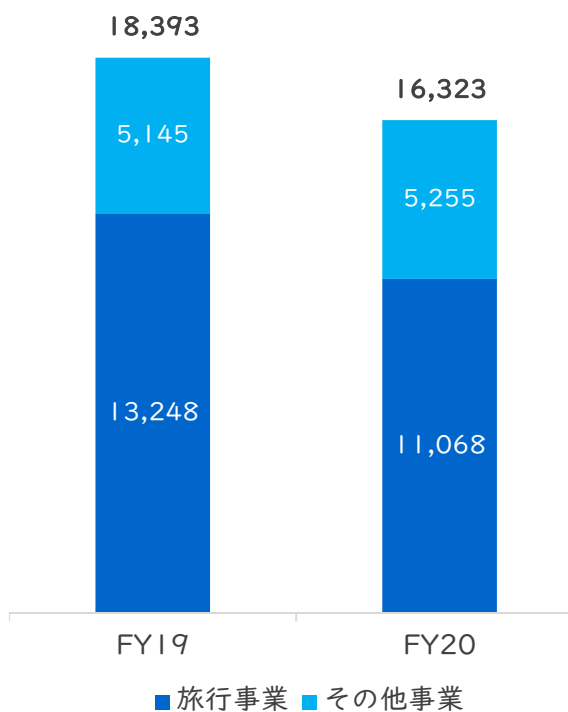
② 現金及び預金は前期より1,239億円減少し、952億円となりました。主に旅行前受金787億円の減少、借入金の返済等によるものです。

[参考データ] 対前期末比

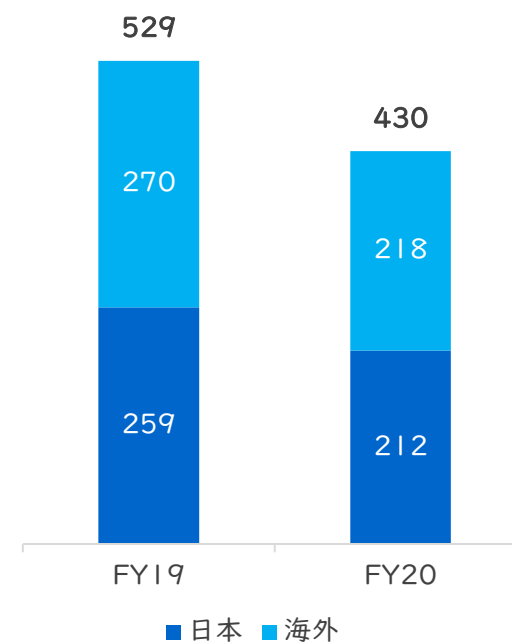
グループ会社数



グループ従業員数



旅行業の営業拠点数



1-2 決算概要 (セグメント別)

セグメントP/L 四半期

(百万円)		FY19					FY20				
		1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
旅行	売上高	166,617	170,213	175,444	210,188	722,464	175,320	124,269	46,338	13,703	359,631
	YoY	114.3%	107.8%	116.1%	107.0%	110.9%	105.2%	73.0%	26.4%	6.5%	49.8%
	営業利益	4,071	2,130	1,948	5,604	13,754	2,370	▲4,046	▲10,283	▲9,167	▲21,127
	YoY	205.7%	94.9%	203.0%	79.7%	112.7%	58.2%	-	-	-	-
	EBITDA	4,996	3,048	3,094	6,841	17,980	3,658	▲2,739	▲9,028	▲7,934	▲16,044
	YoY	175.2%	93.4%	165.5%	86.0%	112.8%	73.2%	-	-	-	-
テーマパーク	売上高	7,415	6,273	6,503	7,893	28,086	6,447	3,400	832	3,004	13,684
	YoY	96.9%	84.7%	97.7%	88.1%	91.5%	86.9%	54.2%	12.8%	38.1%	48.7%
	営業利益	1,771	909	1,037	1,358	5,075	644	▲1,150	▲1,587	▲1,300	▲3,393
	YoY	89.7%	50.0%	85.7%	58.8%	69.4%	36.4%	-	-	-	-
	EBITDA	2,289	1,435	1,561	1,889	7,175	1,166	▲737	▲1,207	▲685	▲1,464
	YoY	93.5%	62.2%	88.2%	66.3%	76.5%	50.9%	-	-	-	-
ホテル	売上高	3,087	3,117	3,222	3,248	12,676	3,811	2,658	994	1,221	8,685
	YoY	98.6%	100.3%	110.5%	112.7%	105.3%	123.4%	85.3%	30.8%	37.6%	68.5%
	営業利益	257	210	▲409	▲275	▲217	311	▲805	▲1,687	▲1,381	▲3,564
	YoY	65.2%	66.0%	-	-	-	121.0%	-	-	-	-
	EBITDA	520	523	151	▲136	1,059	731	512	▲912	▲628	▲296
	YoY	71.1%	80.0%	33.1%	-	50.0%	140.6%	97.9%	-	-	-

セグメントP/L 四半期

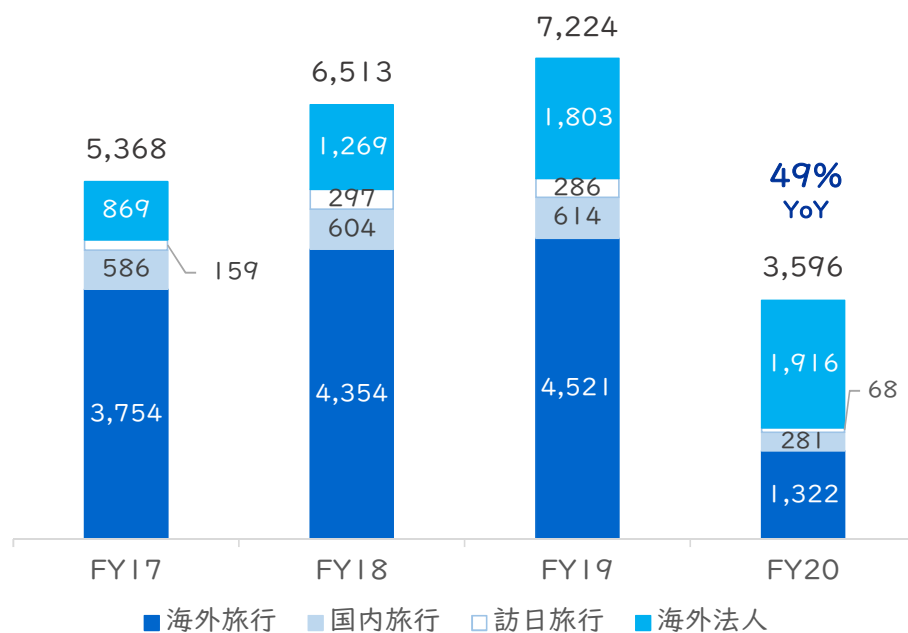
(百万円)		FY19					FY20				
		1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
九州産交 グループ	売上高	5,882	5,273	5,247	5,827	22,230	6,934	5,460	3,037	3,745	19,177
	YoY	102.5%	103.3%	99.4%	105.6%	102.7%	117.9%	103.5%	57.9%	64.3%	86.3%
	営業利益	183	114	▲58	▲81	158	316	▲118	▲1,147	▲1,182	▲2,132
	YoY	78.0%	100.0%	-	-	39.7%	172.6%	-	-	-	-
	EBITDA	405	344	182	270	1,203	801	369	▲661	▲604	▲95
	YoY	89.0%	98.6%	80.7%	74.3%	86.2%	197.5%	107.2%	-	-	-
エネルギー	売上高	4,014	5,266	4,606	6,574	20,461	6,291	7,715	4,871	7,514	26,393
	YoY	176.1%	181.0%	167.4%	162.4%	170.7%	156.7%	146.5%	105.8%	114.3%	129.0%
	営業利益	118	244	131	479	974	268	665	▲744	▲25	163
	YoY	-	-	130.6%	-	-	225.9%	271.8%	-	-	16.8%
	EBITDA	135	264	151	499	1,050	289	687	▲722	0	255
	YoY	-	-	107.7%	-	-	214.2%	259.9%	-	0.1%	24.3%
その他	売上高	1,556	1,877	2,479	2,463	8,376	2,058	1,816	868	697	5,440
	YoY	-	-	-	-	-	132.3%	96.7%	35.0%	28.3%	64.9%
	営業利益	101	125	221	140	590	402	448	580	▲58	1,373
	YoY	-	-	-	-	-	395.6%	358.7%	261.8%	-	232.9%
	EBITDA	223	245	344	264	1,077	489	567	678	38	1,775
	YoY	-	-	-	-	-	218.9%	231.3%	197.0%	14.8%	164.7%

旅行事業

- 新型コロナウイルス感染が世界的な拡がりとなり、各国で渡航制限等の措置が継続するなど甚大な影響を受け、売上高は半減（YoY 49%）。
- 収益面においては、コスト削減等の対策を施しましたが、**営業損失211億円**（348億円の減益）。

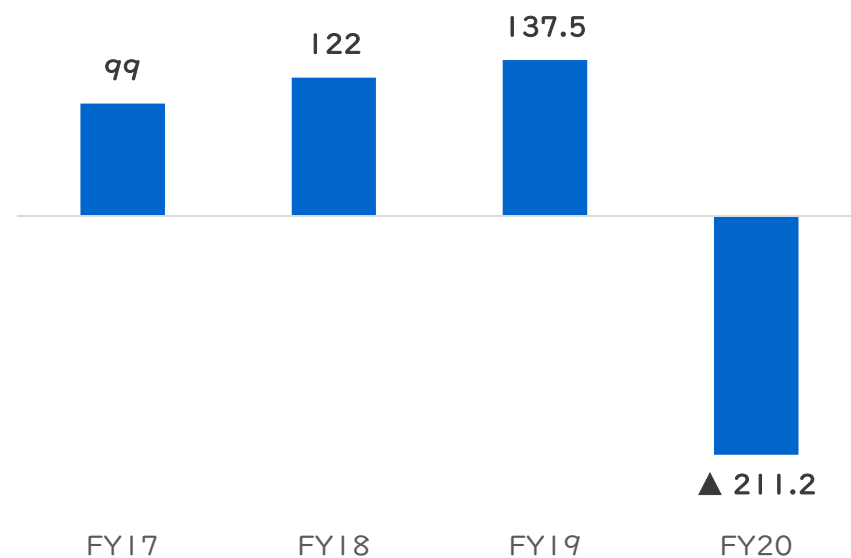
売上高

（億円）



営業利益

（億円）

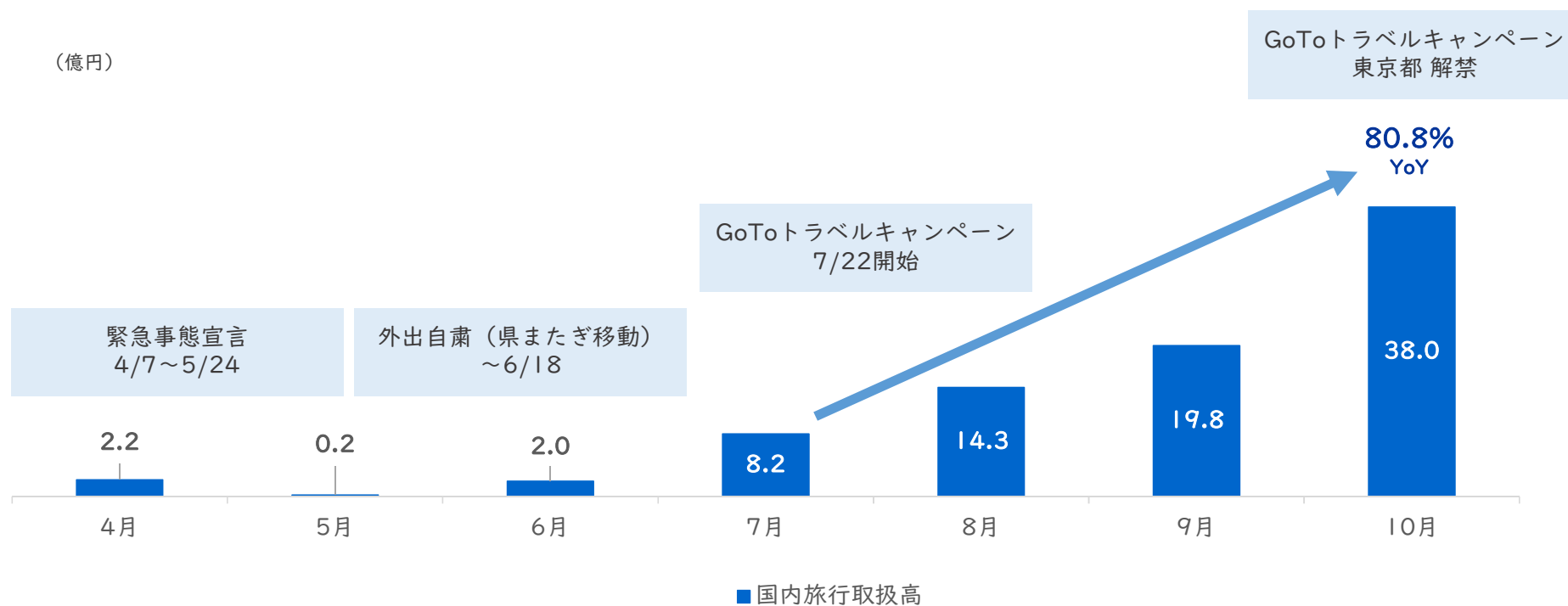


旅行事業 国内旅行

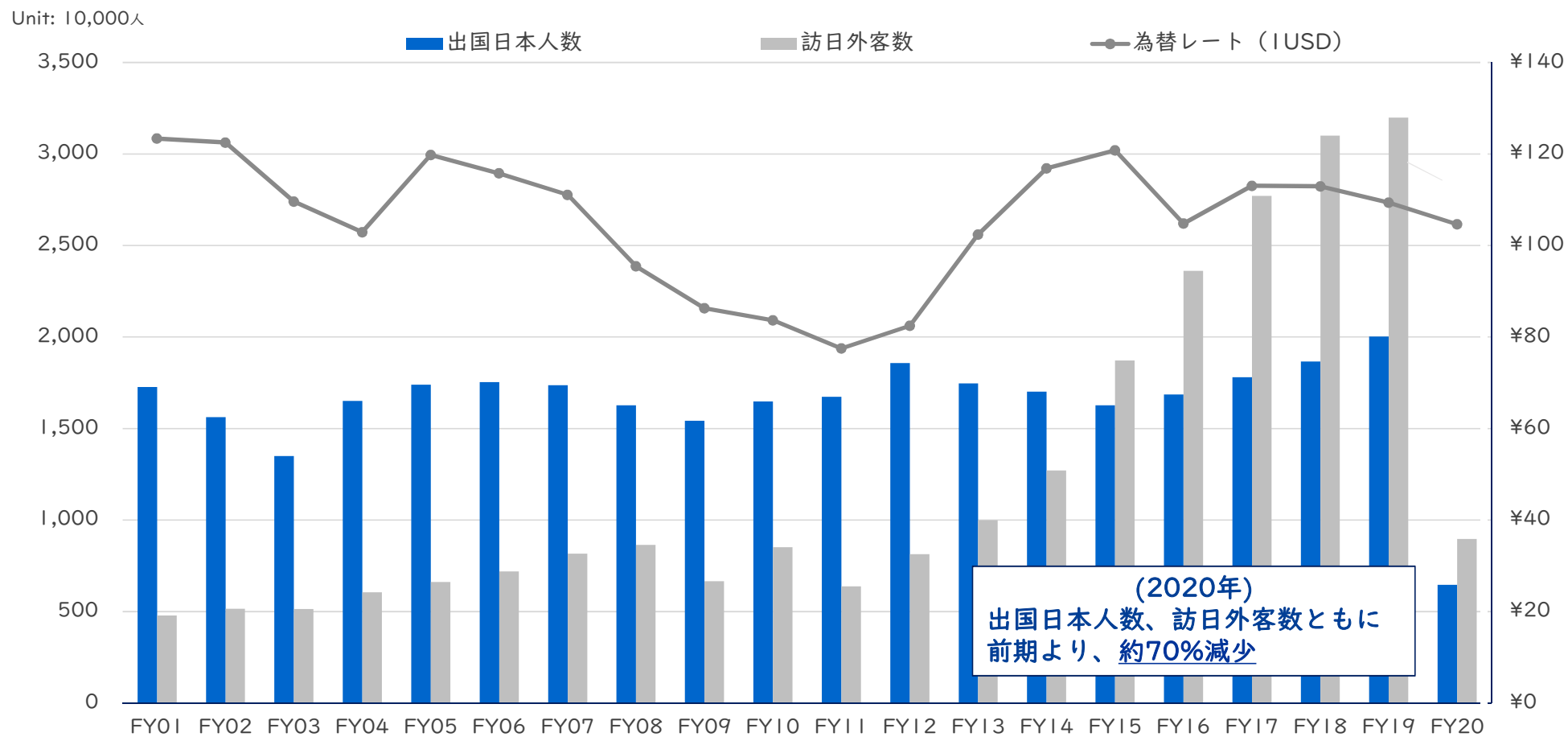
緊急事態宣言解除後の需要も冷え込んだものの、GoToトラベルキャンペーン開始以降は限定的な回復から、10月にはYoY 80.8%まで大きく回復。

国内旅行取扱高の推移

(億円)



[補足資料] 旅行市場概況



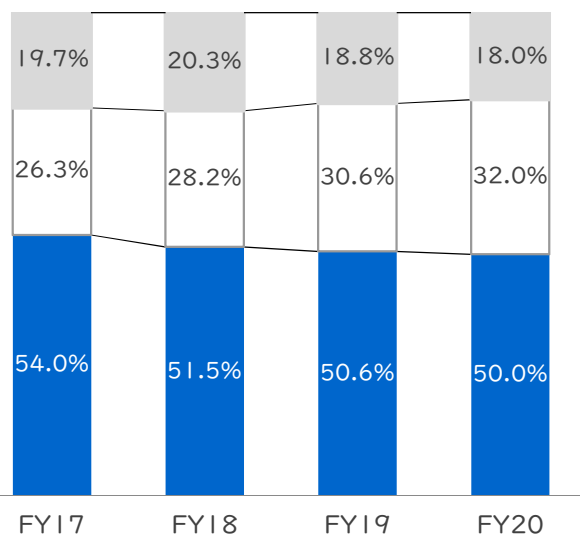
Source : 日本政府観光局 Period : 11月~10月

©2020 H.I.S. Co., Ltd. IR Div.

[補足資料] 海外旅行構成比

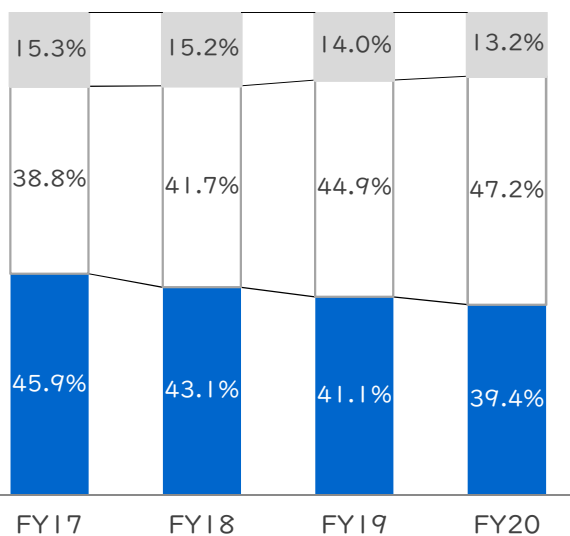
海外旅行チャンネル別 売上高

■店舗 □インターネット ■コーポレート



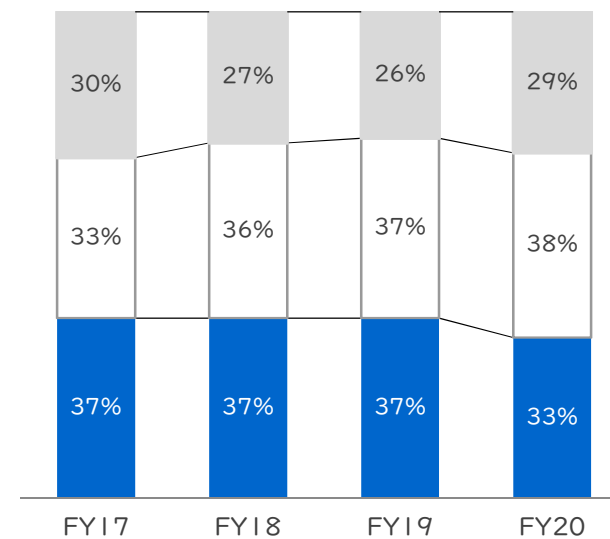
海外旅行チャンネル別 送客数

■店舗 □インターネット ■コーポレート



海外旅行方面別 売上高

■アジア □欧米豪 ■ハワイ・ミクロネシア



※新型コロナウイルス感染拡大によるツアー催行中止の影響により、FY20の構成比は変動

旅行事業 サブセグメントP/L 四半期

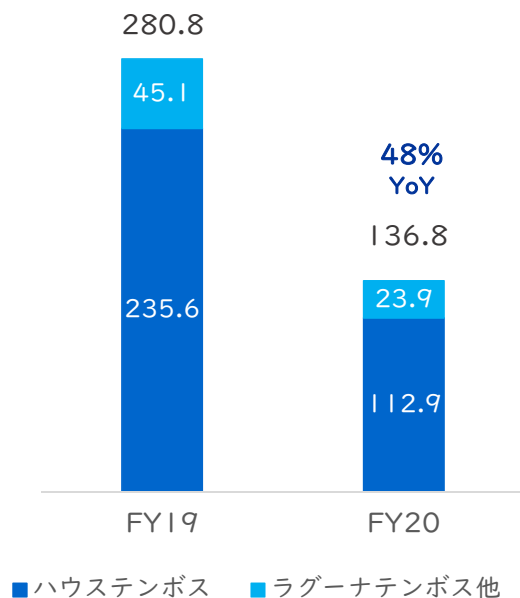
(百万円)	FY19					FY20				
	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
旅行事業 売上高 計	166,617	170,213	175,444	210,188	722,464	175,320	124,269	46,338	13,703	359,631
YoY	114.3%	107.8%	116.1%	107.0%	110.9%	105.2%	73.0%	26.4%	6.5%	49.8%
海外旅行取扱高	87,899	110,754	86,748	116,545	401,948	87,440	42,722	1,141	983	132,288
YoY	106.7%	114.5%	98.9%	97.0%	103.8%	99.5%	38.6%	1.3%	0.8%	32.9%
内、燃油サーチャージ	6,030	8,005	4,308	6,957	25,302	4,837	2,477	16	17	7,348
国内旅行取扱高	11,941	17,576	13,693	18,044	61,255	11,668	8,163	1,059	7,233	28,124
YoY	101.4%	106.9%	99.3%	99.0%	101.7%	97.7%	46.4%	7.7%	40.1%	45.9%
訪日旅行取扱高	7,116	8,075	8,375	6,430	29,997	5,849	753	50	190	6,844
YoY	119.5%	105.6%	88.7%	77.8%	96.0%	82.2%	9.3%	0.6%	3.1%	23.1%
海外法人インバウンド取扱高	56,070	35,339	41,186	50,748	183,343	55,039	38,157	16,729	823	110,748
YoY	127.1%	106.7%	107.3%	98.1%	109.6%	98.2%	107.9%	40.6%	1.6%	60.4%
海外法人アウトバウンド取扱高	19,719	20,213	40,124	40,242	120,298	41,865	50,606	19,648	▲199	111,920
YoY	104.3%	100.0%	188.8%	205.0%	150.4%	212.3%	250.3%	48.9%	-	93.0%
内部取引相殺消去、調整等	▲16,128	▲21,744	▲14,682	▲21,821	▲74,377	▲26,541	▲16,132	7,714	4,673	▲30,293

テーマパーク事業

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う入場者数の減少により、売上高は136億円(YoY 48%)。
- 設備投資や人件費などを見直し、積極的な経費削減に努めたものの、**営業損失33億円**(84億円の減益)。

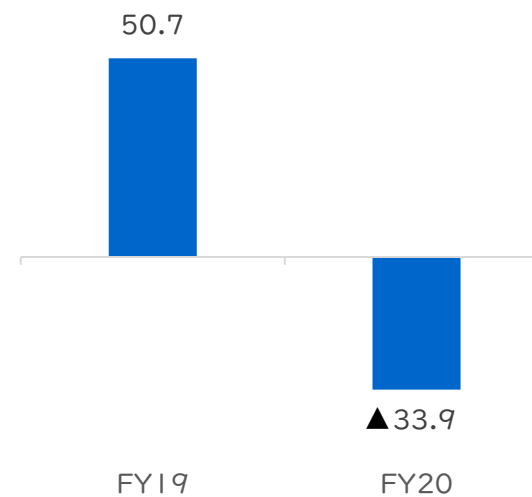
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



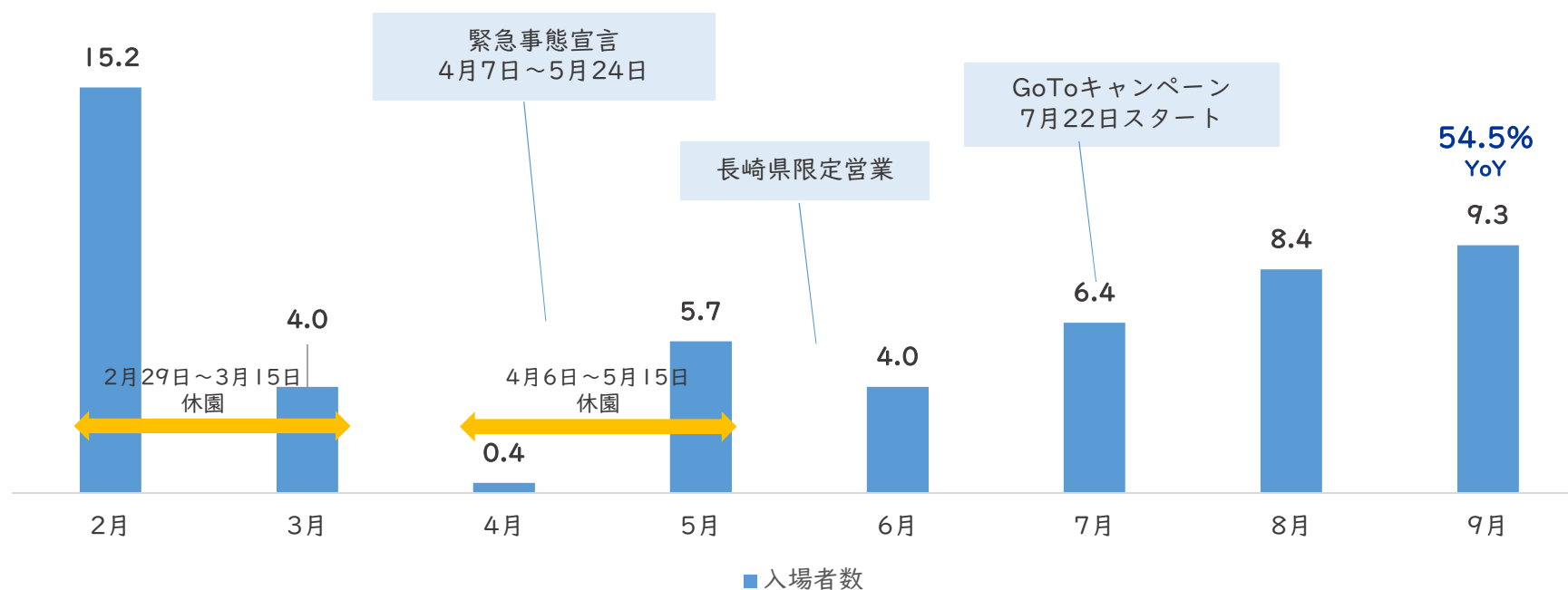
※「ハウステンボスグループ」として表示していた報告セグメントの名称を「テーマパーク事業」に変更しております。
この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

テーマパーク事業 ハウステンボス

- 新型コロナウイルスの影響により、**56日間の休園**。GoToキャンペーン効果は段階的に見られ、9月には入場者数がYoY**54.5%**まで回復。
- 園内の感染予防対策や熱中症対策を徹底したことに加え、SNSや通販事業の強化など各種施策が奏功し、**満足度・リピート意向が上昇**。

入場者数

(万人)



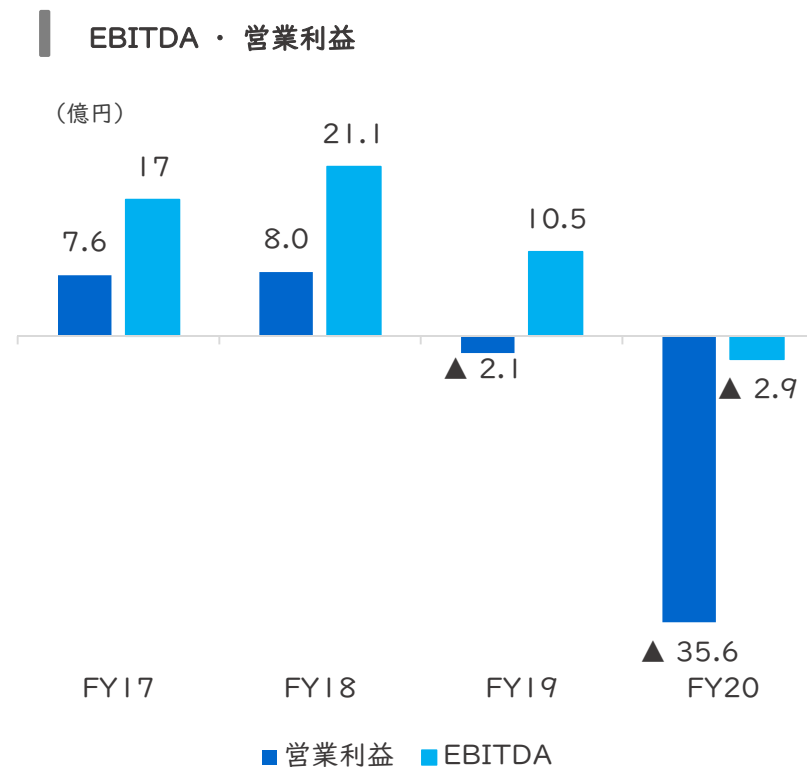
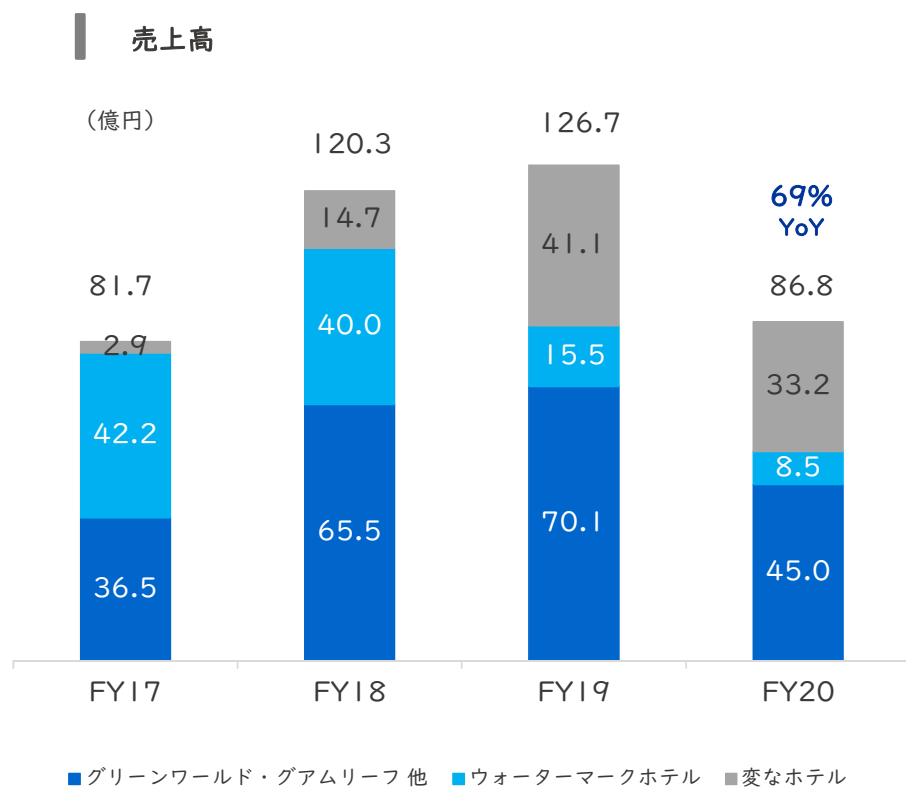
ハウステンボス単独 P/L 四半期

(百万円)	FY19					FY20				
	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
取扱高 (連結調整前)	7,079	5,968	6,133	6,406	25,586	6,116	3,168	714	2,260	12,258
YoY	96.1%	83.2%	96.7%	85.2%	90.1%	86.4%	53.0%	11.6%	35.2%	47.9%
営業利益	1,894	1,277	1,112	1,012	5,295	852	▲692	▲1,742	▲416	▲1,998
YoY	92.4%	61.9%	86.5%	56.9%	73.8%	45.0%	-	-	-	-
入場者数 (万人)	70.8	59.6	60.4	63.7	254.7	68.8	35.2	10.2	24.2	138.6
YoY	97.2%	89.4%	97.0%	90.7%	93.6%	97.2%	59.0%	17.0%	37.9%	54.4%
内、海外客数 (万人)	3.5	4.2	4.5	4.0	16.3	3.0	2.0	0.0	0.0	5.0
YoY	82.1%	89.3%	89.9%	93.3%	88.7%	86.7%	47.6%	-	-	30.7%
宿泊客数 (万人)	7.3	7.0	6.3	7.7	28.4	6.6	3.8	0.1	3.8	14.3
YoY	96.1%	85.3%	96.9%	97.5%	94.0%	90.7%	54.2%	1.5%	48.9%	50.6%
単価 (円: 10円単位切捨て)	9,900	10,000	10,100	10,000	10,000	8,800	9,000	6,900	9,300	8,500
増減	-100	-770	±0	-600	-400	-1,100	-1,000	-3,200	-700	-1,500

ホテル事業

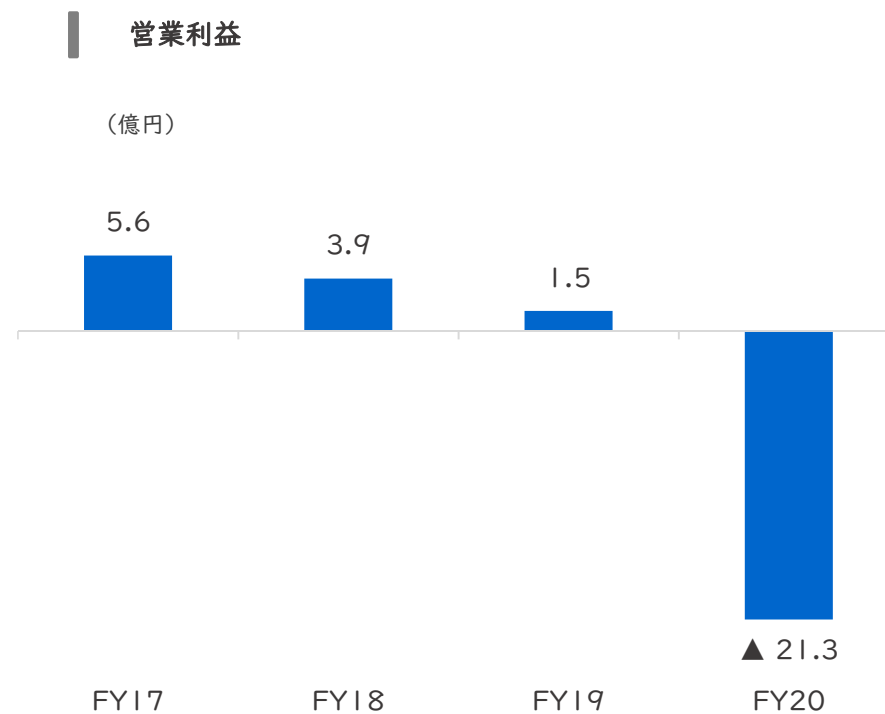
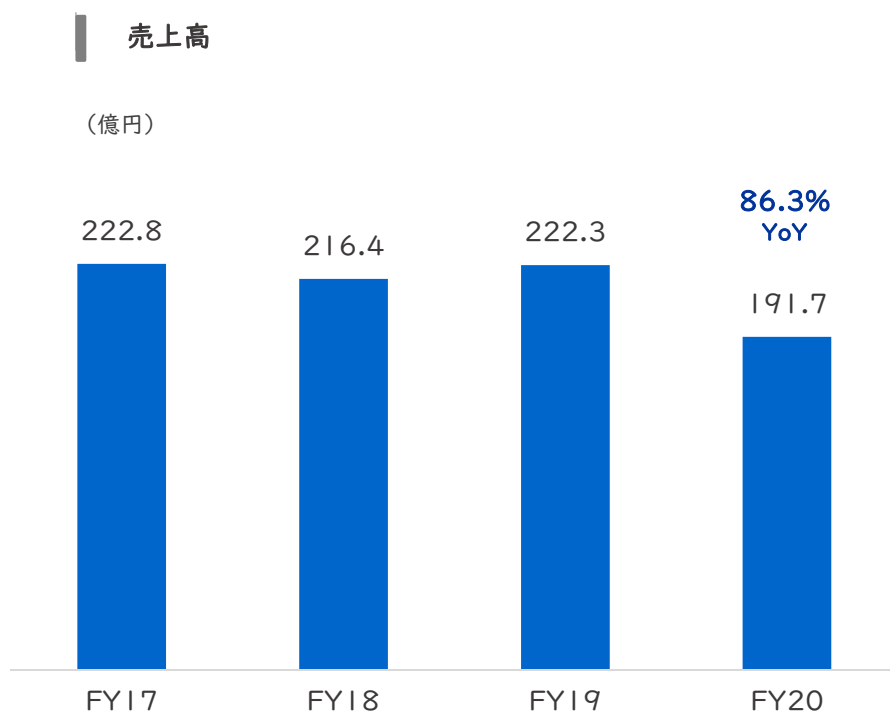
■ 各国の出入国規制や移動自粛の影響を受け、宿泊客が大幅に減少し、売上高86億円（YoY69%）、**営業損失は35億円**（33億円の減益）。

■ 当期は「変なホテル関西空港」「変なホテル金沢 香林坊」の2軒を新たに開業。



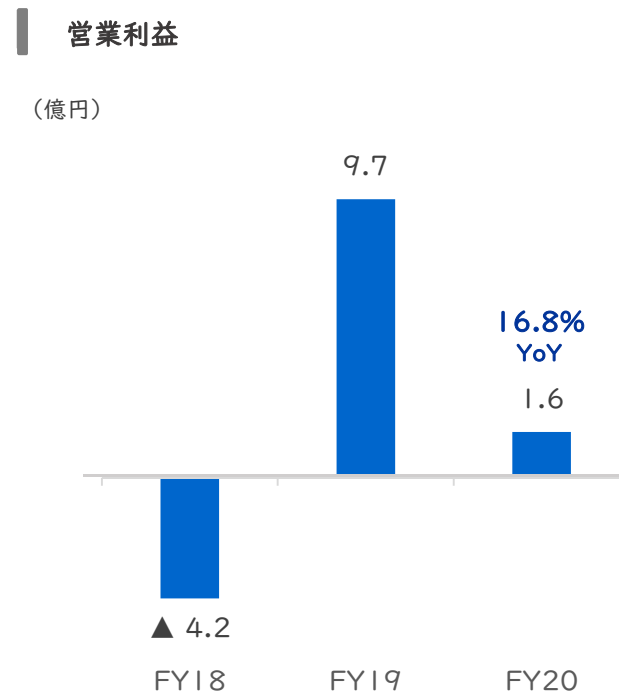
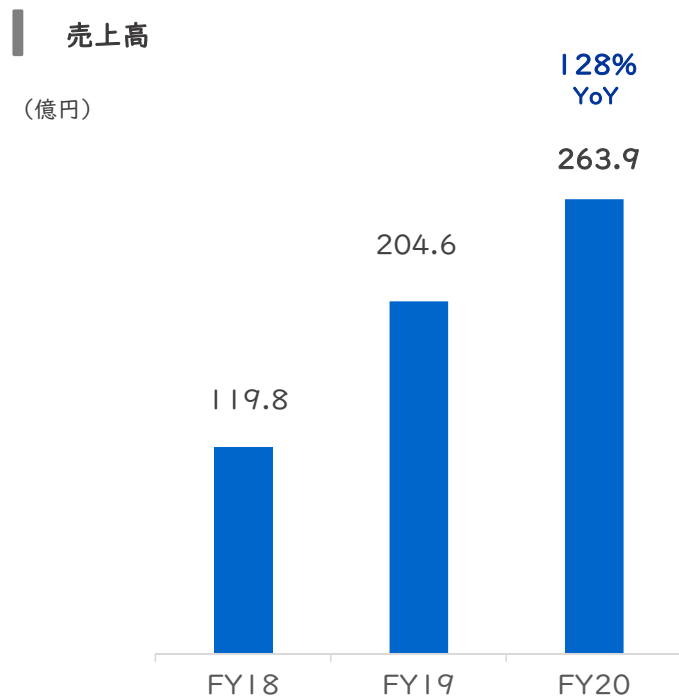
九州産交グループ

回復基調にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大による影響が継続し、売上高は191億円(YoY 86.3%)、**営業損失21億円** (22億円の減益)。



エネルギー事業

- プロモーションを大幅に増やすなど宣伝活動を強化により契約数が増加し、売上高は263億円(YoY 128%) と大幅に増収。
- 利益面においては、3Qの計画未達に加え発電所の開業コストを計上し、営業利益は1.6億円(YoY 16.8%)。

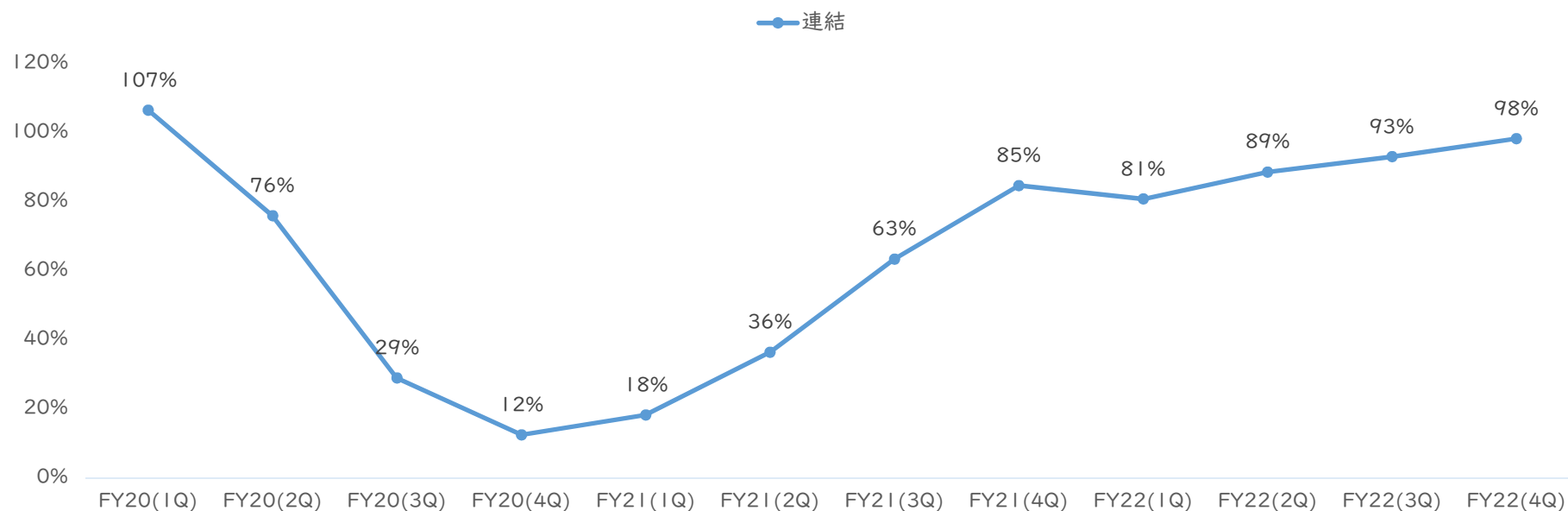


2. 今後の経営方針について

業績回復の想定シナリオ

■ 当社グループの業績は、**2022年にはほぼ2019年の水準まで回復**することを「想定シナリオ」としております。

- ・ 各国の出入国制限等に影響を受ける「旅行事業」及び「ホテル事業」は、2021年初頭から段階的に回復基調に入ると想定。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響が比較的小さい「その他の事業」は、早期の回復を見込んでおります。



※2019年の売上高を100とした場合の各四半期ベースの売上高想定を比較

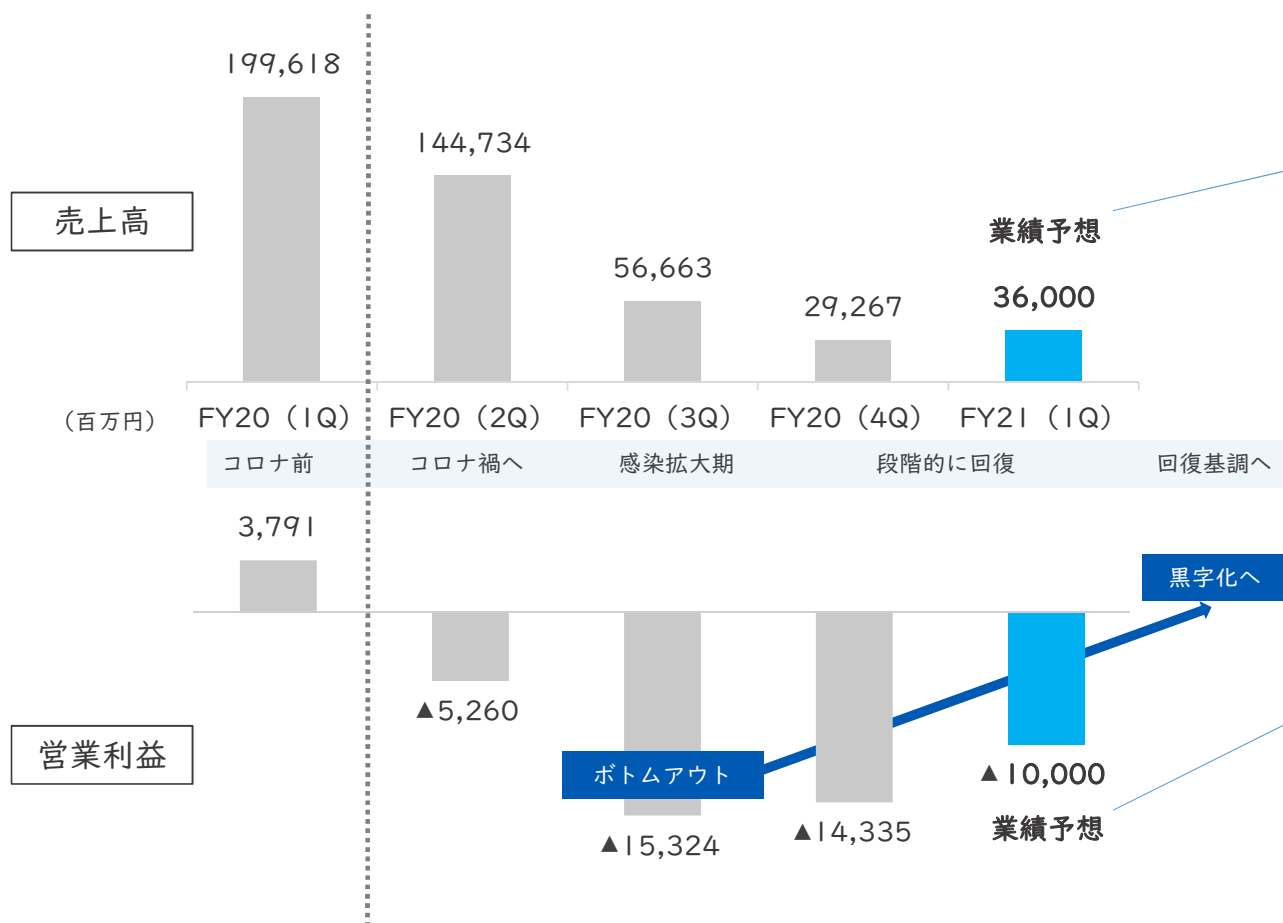
連結業績予想

■ 現時点で新型コロナウイルス感染拡大の影響を合理的に算定することが困難のため、**通期の業績予想は「未定」**とさせていただきます。

→ ただし、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づき、**第1四半期に限り業績予想を公表**いたします。

(百万円)	FY19	FY20	FY21	FY20 1Q	FY21 1Q予想
売上高	808,510	430,284	「未定」	199,618	36,000
営業利益	17,540	▲31,129		3,791	▲10,000
EBITDA	27,263	▲17,888		6,719	▲6,530
経常利益	17,089	▲31,283		4,288	▲9,800
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,249	▲25,037		2,177	▲6,300
1株当たり 当期純利益	213.63円	▲432.66円		37.93円	▲100.35円
配当	33円	-		-	-

連結業績予想（1Q） ～ 四半期比較 ～



- ・ 21年1Qは、コロナ前の20年1Q比較となるため 1,636億円の減収予想
- ・ 一方、国内旅行の増収やハウステンボスなど コロナ禍の影響が小さい事業の回復により 前四半期と比較し、67億円の増収

- ・ 21年1Qは、コロナ前の20年1Q比較となるため 137億円の減益を予想
- ・ 一方、コスト削減の効果に加え粗利の回復もあり 前四半期と比較し、43億円の改善

黒字化へ

事業ポートフォリオ

中核ビジネス

旅行

日本発海外旅行で
No.1を達成
グローバル事業強化



テーマパーク

アジアを代表する
統合型リゾートの実現



ホテル

自社運営物件の拡充
中長期的に100軒へ



地方創生

大型商業施設・バス
事業を中心とした
まちづくり



新たな柱に成長

エネルギー

小売の継続的成長と
自然エネルギーによる
発電



不動産

優良物件の取得
物件の付加価値向上



金融

保険業などの
金融サービス提供



チャレンジ 領域



今後の収益の柱へ

新規事業プロジェクト

飲食

ライフ&エンディング

ホテル・旅館再生

人材派遣

農業

通信販売

新規事業の取り組み

◎ 飲食プロジェクト

～ 満天ノ秀そば ～

「日本伝統のそばを世界の人に広める」を目標に、そば屋を展開。まずは日本国内でお客様に支持されるべく、多様なニーズに対応できるコンセプトのお店を出店していきます。

- ・川越店（1号店）、飯田橋店（2号店）をオープン
- ・神田と四谷での開業を予定しており、計4店舗へ
- ・将来的には100店舗を展開し、海外進出も視野に



◎ ライフ&エンディングプロジェクト

「最期まで人生を楽しむ」をテーマに、ライフ&エンディングのあらゆるサービスを提供します。

- ・リモートお墓参りサポート
- ・お墓掃除代行
- ・散骨、海洋葬
- ・終活ツアー
- ・オーダーメイドの思い出旅



HIS 人生を楽しもう！
LIFE&ENDING

重点取り組み課題

コロナ禍の対策

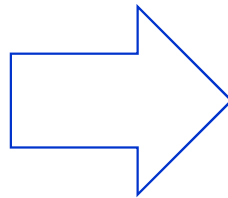
- ・ 感染拡大防止策の徹底
- ・ 経営リソースの再配分
- ・ コスト削減策の実施

財務戦略

- ・ キャッシュアウトの抑制
- ・ 資金確保による財務の健全性

最適な事業ポートフォリオの構築

- ・ 収益体質の強化
- ・ 新規事業へのチャレンジ(未来への投資)

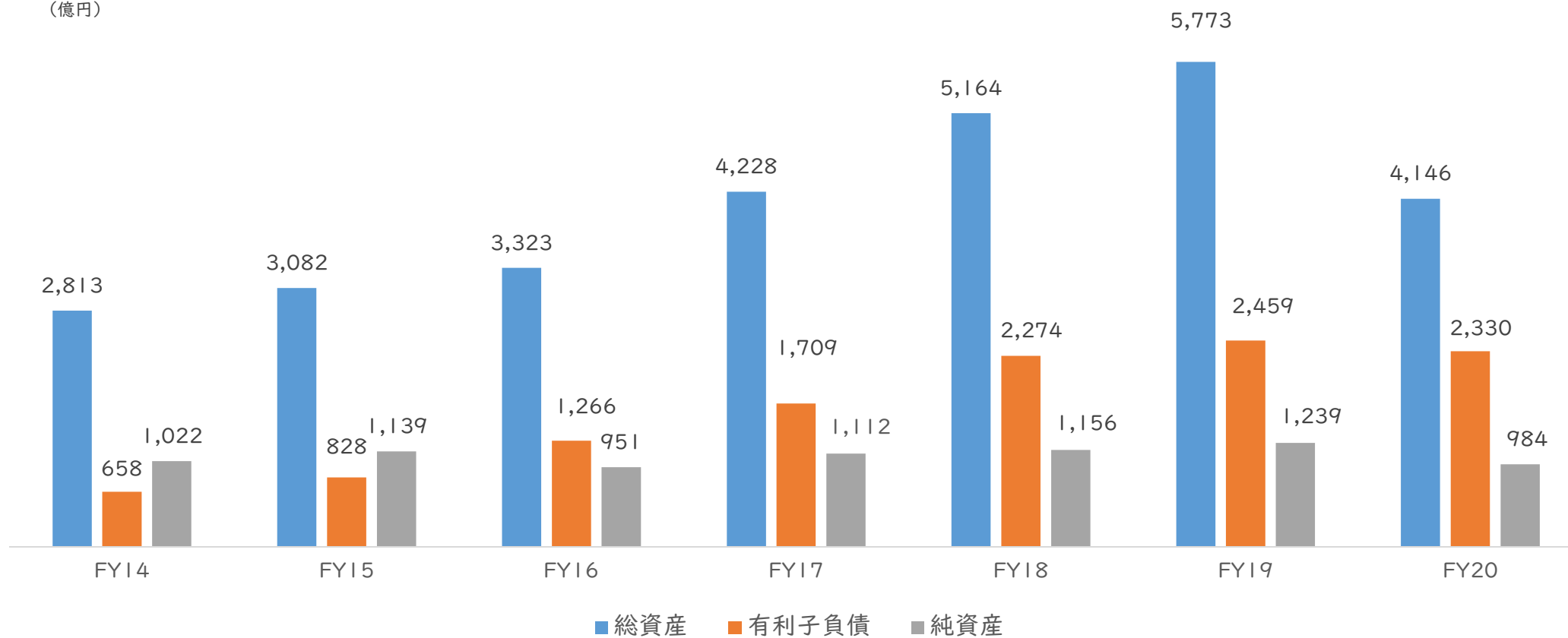


- ◎ 財務基盤を安定させ、早期の黒字化を目指す
- ◎ 新たな収益の柱を育て、再び成長軌道へ

3. 当面の財務方針

総資産、有利子負債、純資産の推移

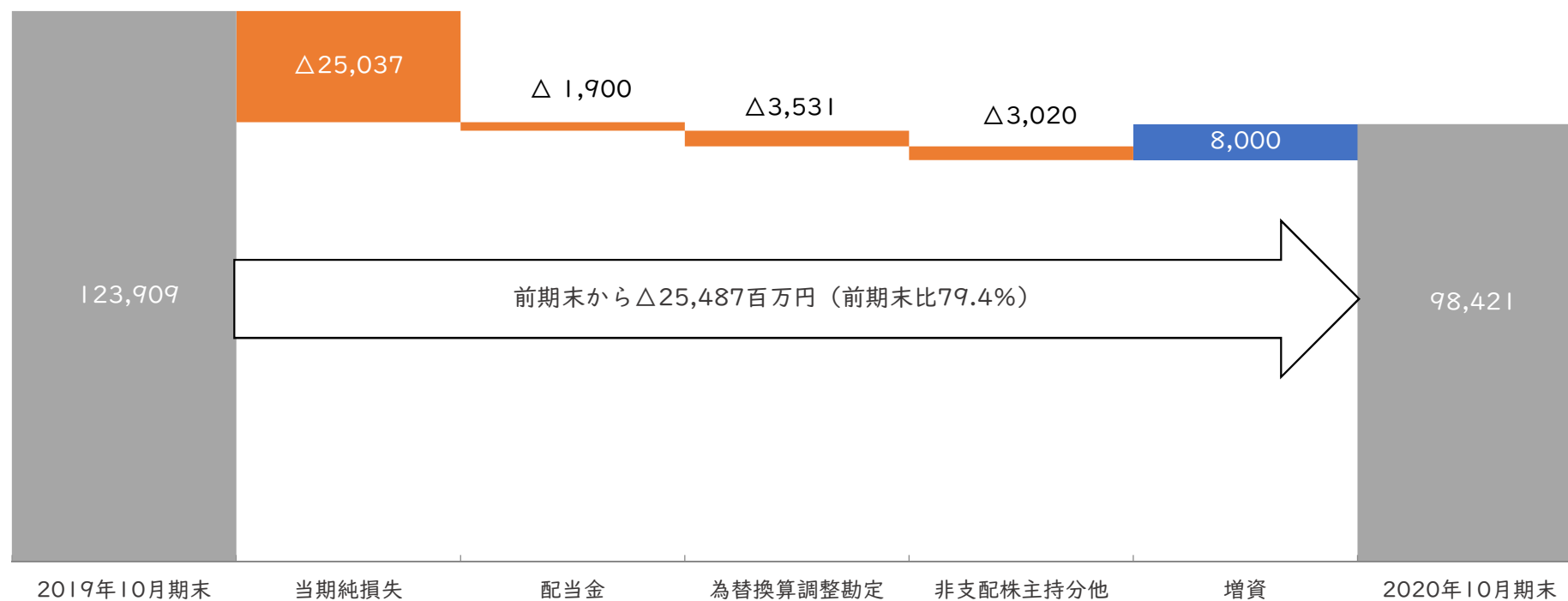
(億円)



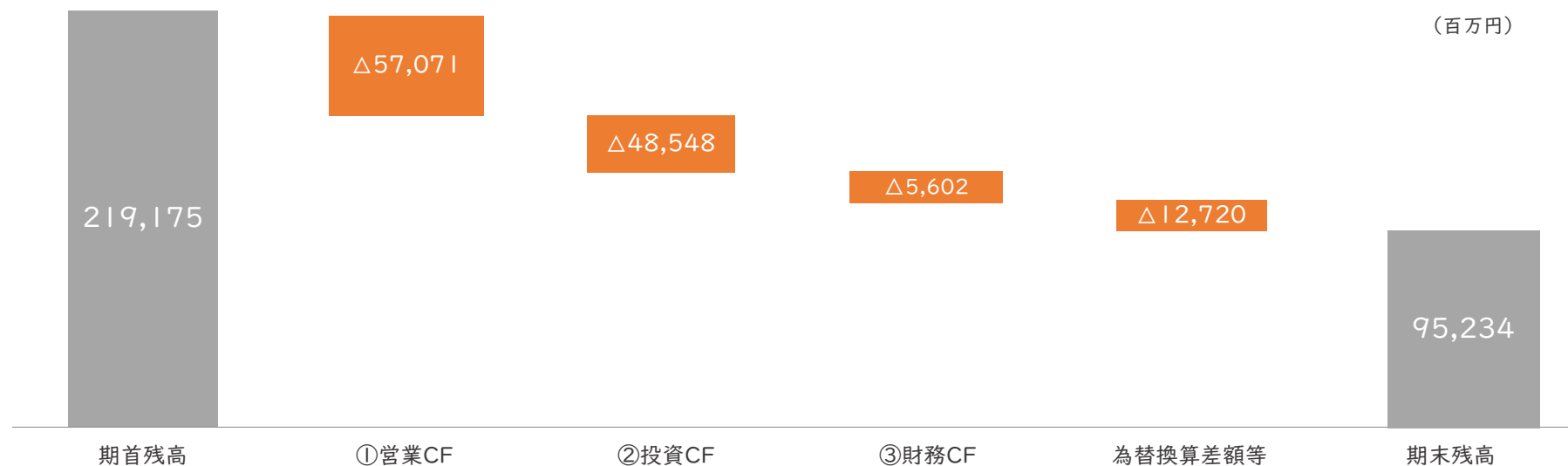
2020年10月期末の純資産

前期末からの純資産推移

(百万円)



現預金の推移



【2020年10月期】主な増減要因

①営業CF		②投資CF		③財務CF	
税引前当期純利益	△33,101	有形・無形固定資産の取得	△66,565	株式発行収入	7,728
減価償却費等	12,880	投資有価証券の売却収入	6,299	借入金の返済	△11,650
旅行前受金の減少	△77,912			配当金の支払	△1,900
旅行前払金の減少	44,113				

財務面での対策

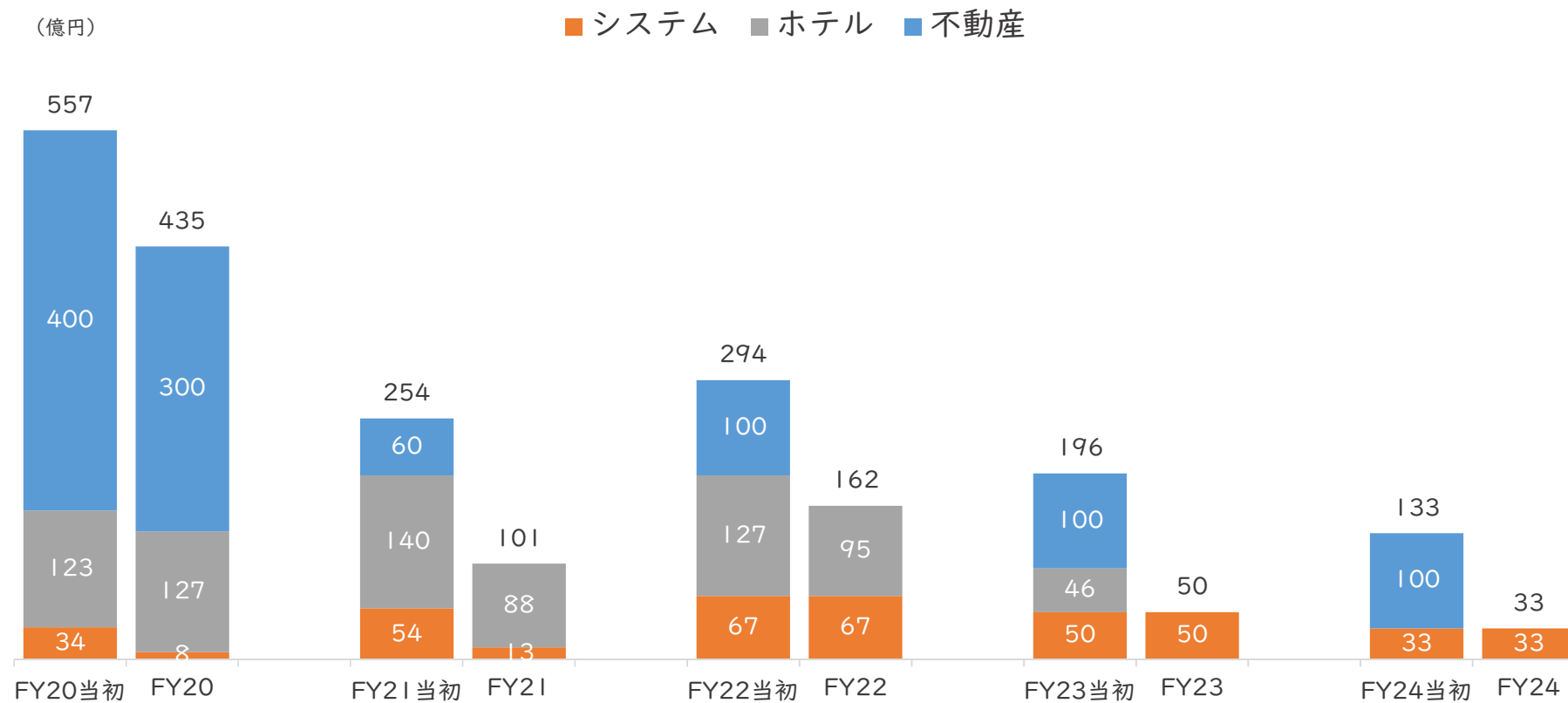
① 投資計画の見直し

② 手元流動性の確保

③ コスト削減

投資計画の見直し（2020年中間期末での見直し）

投資計画



手元流動性の確保

2019年11月～資産売却の内訳

(億円)

		簿価	売却額	売却益	
不動産	FY20	12.3	13.5	1.1	
	FY21	16.0	18.5	2.5	
不動産 計		28.3	32.0	3.6	
有価証券	株式	5.3	10.4	5.1	
	投資信託	FY20	39.3	43.3	4.0
	その他		7.3	9.0	1.7
	FY20 (小計)		52.0	62.9	10.8
	投資信託	FY21	22.2	23.3	1.0
有価証券 計		74.3	86.2	11.9	
合計		102.6	118.2	15.6	

コミットメントライン、当座借越の確保

コミットメントライン 330億円

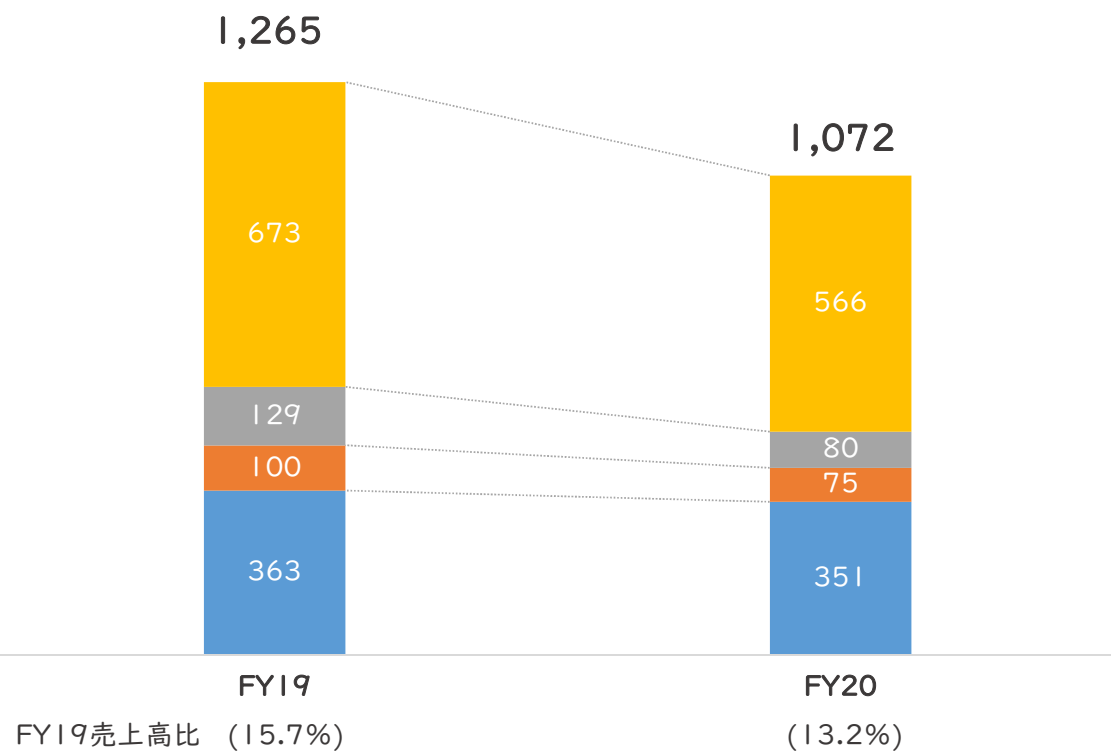
当座借越 30億円

コスト削減策

コスト構造の前期比較

(億円)

■ 人件費 ■ 宣伝費 ■ 支払手数料 ■ その他



【今後の見通し】

業績の回復とともに人件費や変動費である宣伝費は増加するが、新しいコスト構造をベースとした経営を推進

中期施策方針(重点取り組み課題と成長戦略)

- ① 事業ポートフォリオの見直し → キャッシュポジションの改善
- ② 自己資本の充実化 → 財務の安定性を向上

【施策の方針】

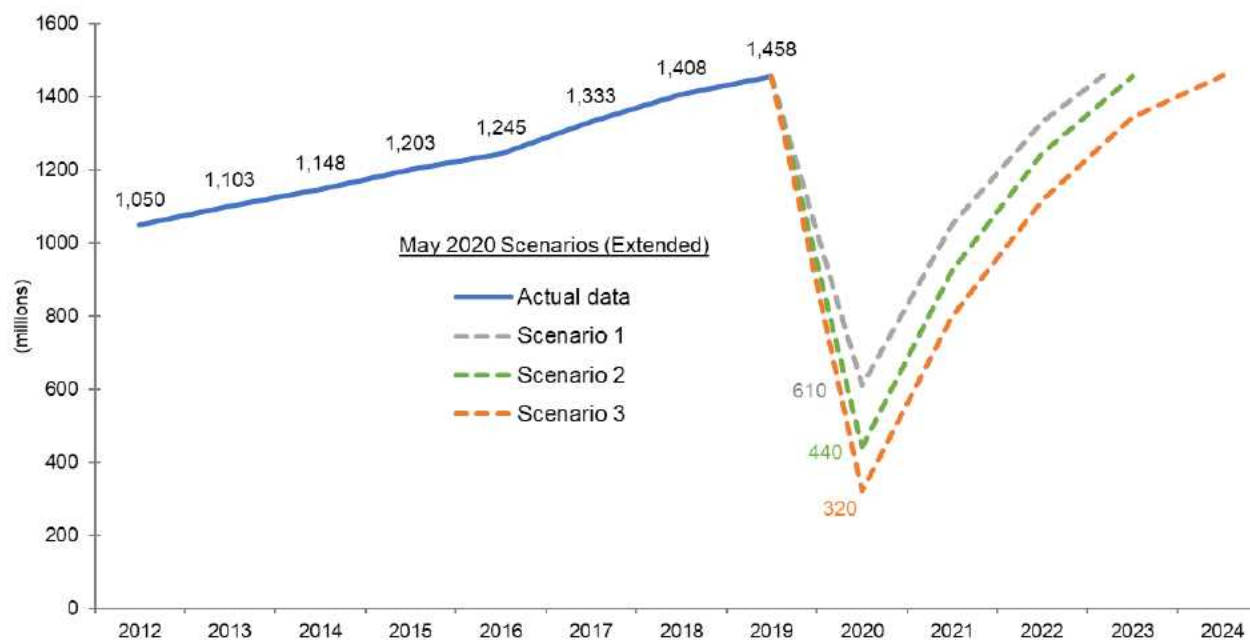
- (1) 先ず自己資本比率(ネットキャッシュベース)
安定的に20%超を目指す
 - 資本増強
 - 収益力の確保
- (2) フリーキャッシュフローの改善
 - 設備投資の見直し
 - 保有資産の流動化

4. 各事業セグメントの取り組み

旅行市場の動向

旅行市場の回復シナリオ 旅行需要は中長期的に回復へ向かい再成長

- ・ 国際航空運送協会（IATA）は、2021年の世界の航空需要が新型コロナウイルスが広がる前の19年の半分になるとの見通しを発表。
- ・ 新型コロナウイルス感染対策として、イギリスに次いでアメリカもワクチン投与時期を発表するなど、**ワクチン接種が本格的にスタート**。



Source: UNWTO (国連世界観光機関)

旅行事業の見通し

新型コロナウイルス感染拡大の影響は継続するものの、各国においてコロナ禍の対策を講じ、**2022年に19年水準までの回復を目指す。**

(百万円)	FY20 1Q	FY21 1Q予想	前期差
売上高	175,320	14,500	▲160,820
営業利益	2,370	▲9,400	▲11,770
EBITDA	3,658	▲8,140	▲11,798

現況と見通し

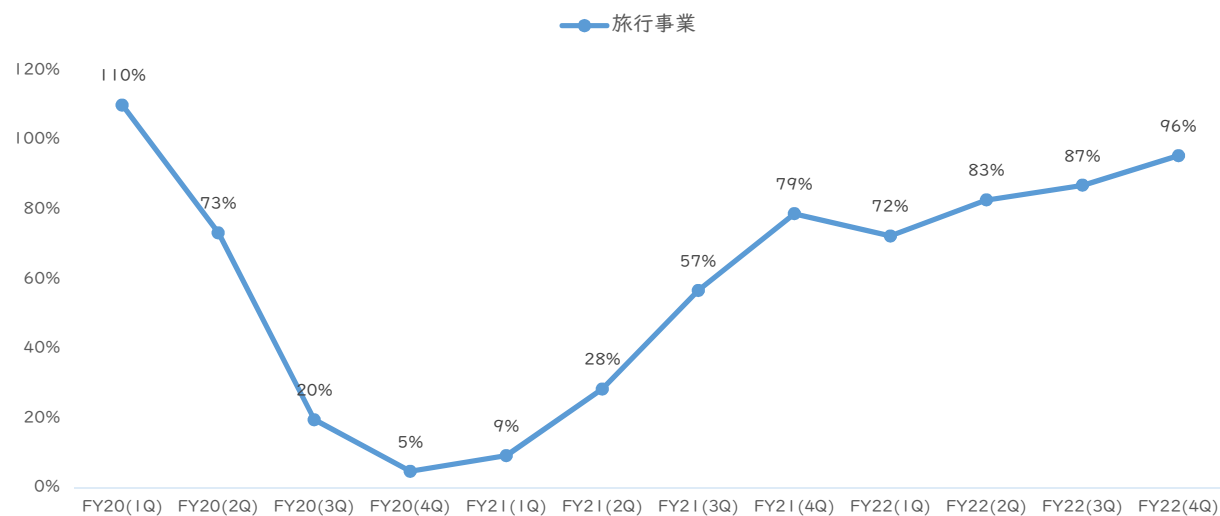
<国内旅行>

- ・緊急事態宣言以降、移動自粛等により一時的に大幅な需要減。
- ・GoToキャンペーンのスタート以降は回復基調となり、足元では19年水準を超えて回復し、**東京解禁後は予約数が倍増。**
- ・GoToキャンペーン終了に伴う反動減や感染拡大に伴う再度の緊急事態宣言等の影響を受ける可能性あり。

<国際旅行（海外旅行）>

- ・各国の出入国規制等に左右され、一部で規制解除の動きも見られるものの、19年水準までの需要回復は22年以降の想定。
- ・PCR検査が必要も**14日間の隔離規制が解除されたハワイでは1,000名を超える予約を受注。**

想定シナリオ

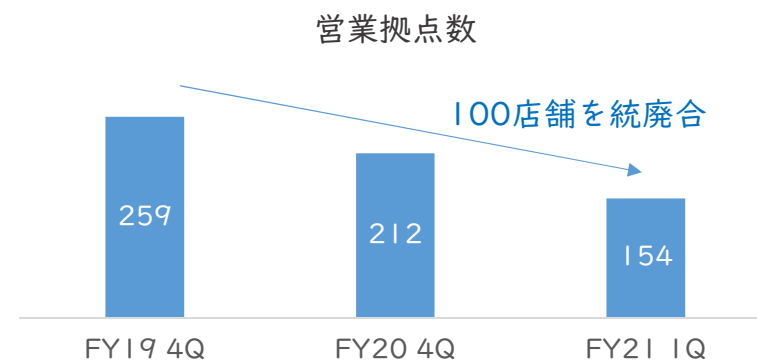


※2019年の売上高を100とした場合の各四半期ベースの売上高想定を比較

日本における旅行事業

販売チャネルの見直しなど、経営リソースの最適化を図りコスト構造の変革に着手

- ◎ 店舗の統廃合を実施。集客のメインチャネルを店舗からオンラインにスピード転換
- ◎ コストコントロールにより、月間の経費を50億円から30億円以下に圧縮
- ◎ 海外旅行に係わる経営資源を国内旅行へ配置
- ◎ 新規事業や成長領域への人員配置
他の事業セグメントへの異動、採用計画の見直し
- ◎ 雇用調整助成金の活用（現時点では2021年2月まで）
- ◎ 感染拡大が継続した場合は、雇用確保のため社員の出向を検討



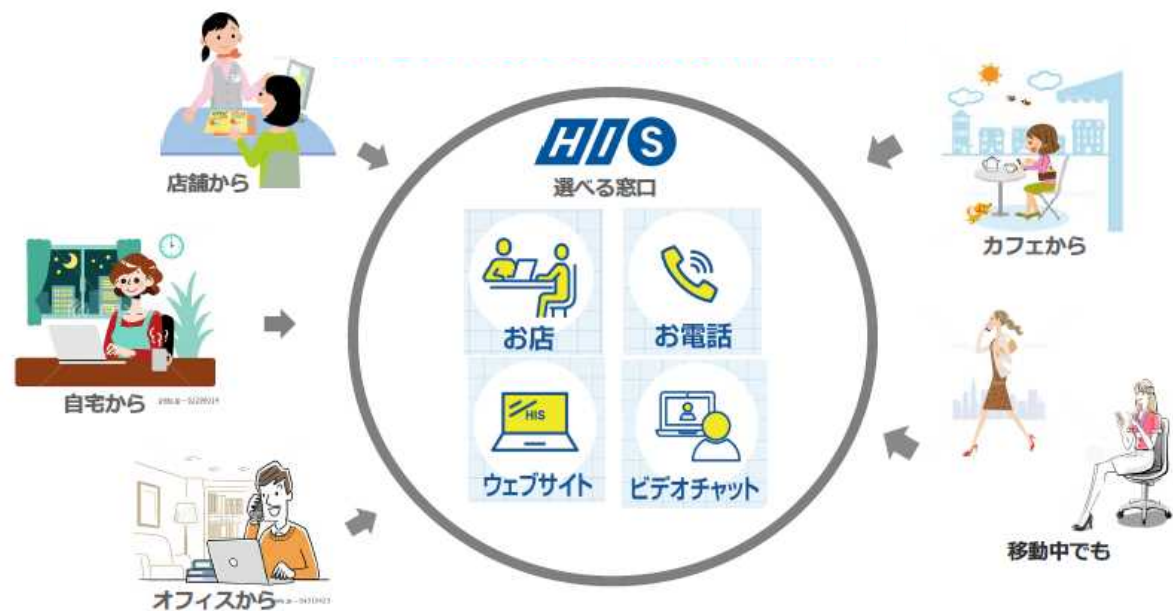
HIS単体 人員計画

	2020年実績	2021年計画	計
入社者数	622	40	662
退職者数	360	650	1,010
増減	262	▲610	▲348

日本における旅行事業

接客DXによる顧客の利便性・サービスの向上

◎ DXによるデジタル化を促進し、更なる効率化を図る



2021年1月より全国にてテストスタート

日本における旅行事業

海外旅行の需要回復局面までは、徹底的に「国内旅行」を強化

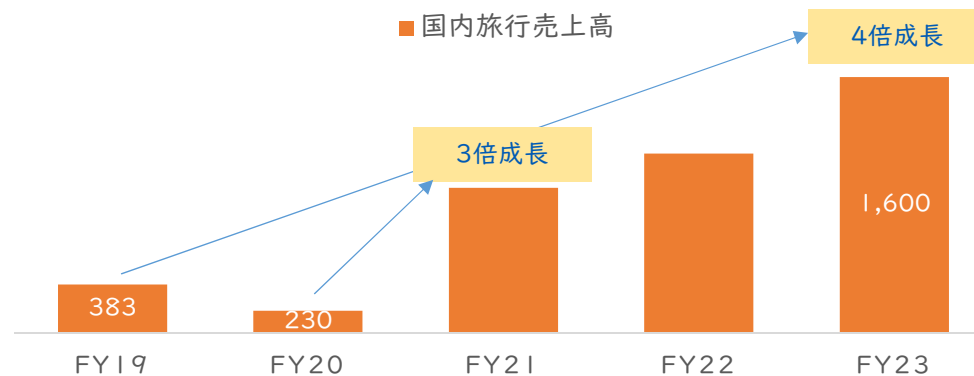
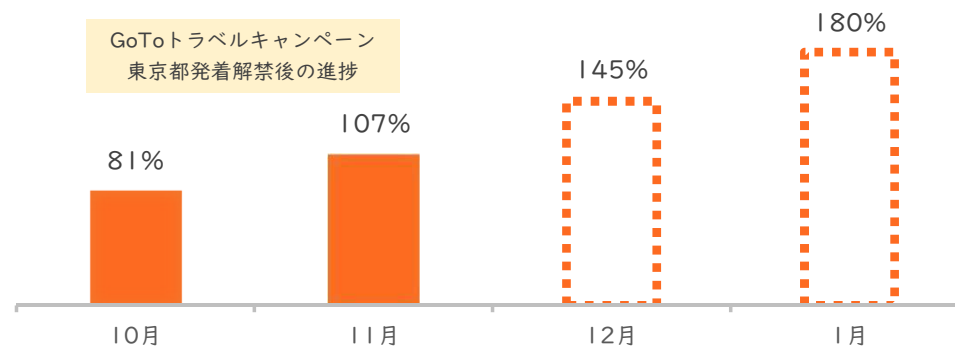
◎ GoToトラベルキャンペーンの活用

- ・需要を確実に捉え、取扱い大幅増へ
- ・機会拡大、6月下旬まで延長の可能性あり
正式発表後→初夢フェアなど大きくキャンペーン展開を予定
- ・夏期需要の取り込み強化

◎ 商品の拡充

- ・仕入れ強化によるパッケージ商品の在庫拡充
- ・国内ダイナミックパッケージ、ホテルサイトの強化
- ・ピーク時期を見据えたチャーター事業の準備
- ・バスツアー、鉄道ツアーの強化

国内旅行の受注状況（12/9時点の前年同日同月比）



日本における旅行事業

海外旅行需要の回復に向けて ～反転速攻の準備～

◎ 他社との差別化を図り、先取りを強化

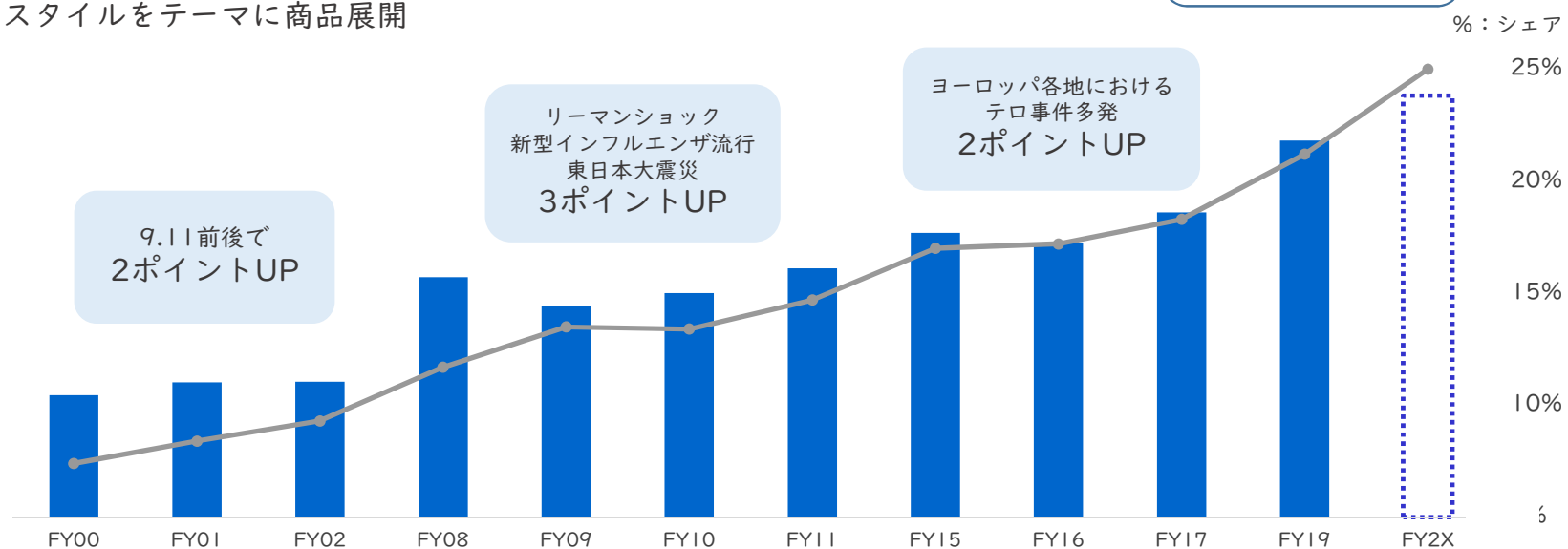
- ・ 未来旅行 2021 プロジェクト スタート
- 安心、安全な新しい旅のスタイルをテーマに商品展開

過去の有事後における成長推移

■ 海外旅行取扱額 ● H.I.S.シェア

アフターコロナ
大幅シェアアップを
目指す

世界中の元気に繋がりますように
未来旅行2021
PROJECT
KEEP GOING.



Source : 観光庁 Period : 11月～10月

反転速攻によるシェア拡大の最大のチャンス

日本における旅行事業

◎ 方面別の回復想定シナリオ

- ① ハワイ ② 台湾、シンガポールなど「アジア」 ③ グアム ④ ヨーロッパ、中近東、アメリカ

時期 早い

遅い



構成比 約20%



約35%



約10%

ロングステイネーション

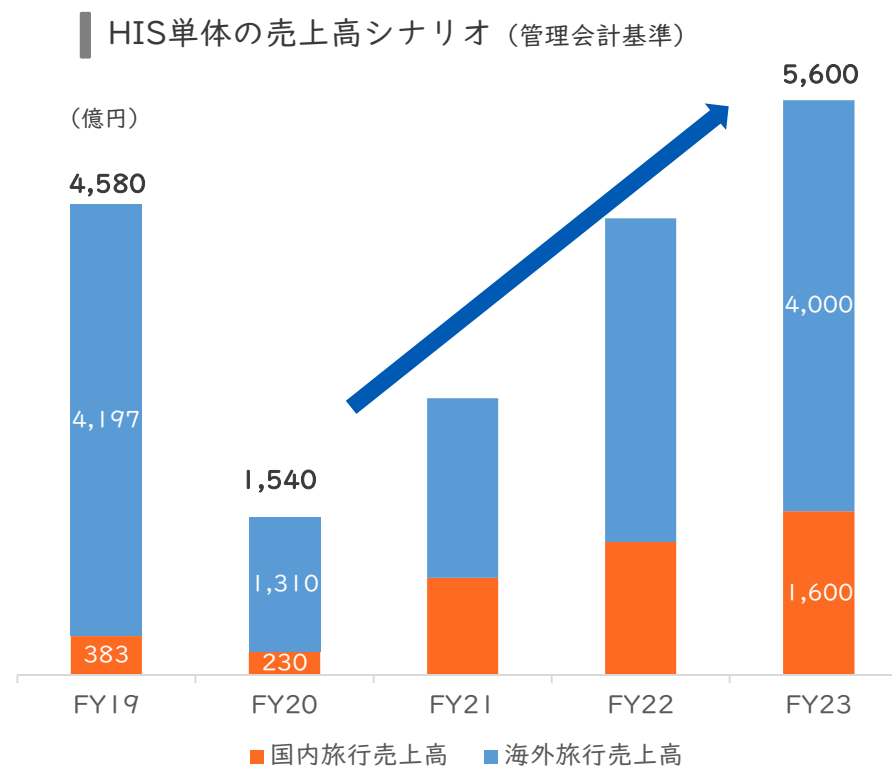
約35%

ハワイ&グアム+アジアの回復により、全体の65%をカバー

日本における旅行事業

アフターコロナの展開

- ◎ 海外旅行では圧倒的なスピード展開で更なるシェアの獲得
- ◎ 国内旅行の拡大成長、海外旅行の回復による
バランスの取れた収益構造へ変化
- ◎ 国策の訪日外客数6千万人に向けた訪日旅行の強化
- ◎ 将来的な業界再編の可能性を視野に入れた
機動的なM&A



海外における旅行事業

コロナ禍の対策

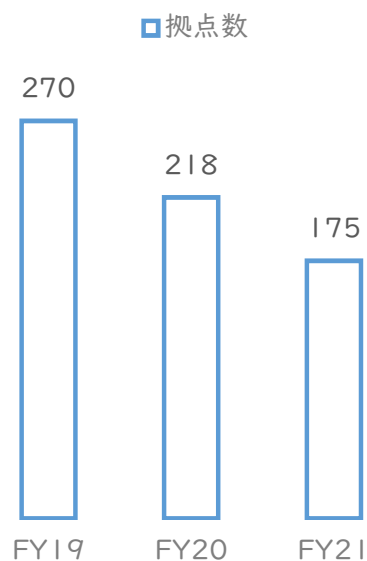
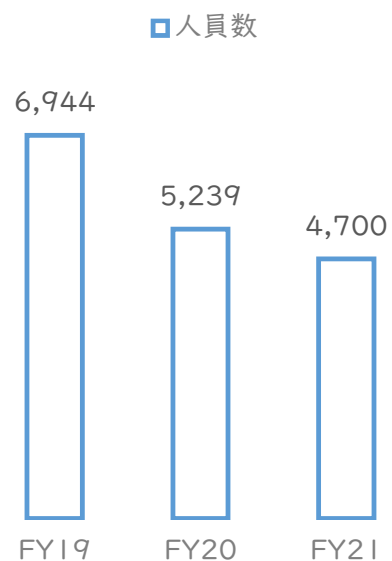
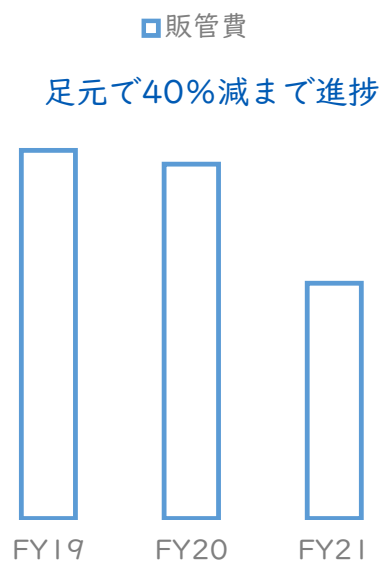
◎ コスト削減を一段と強化し、2021年度NOビジネス状況下でも乗り切れる経営体制へ

販管費削減目標の見直し
30%から50%へ

① 人件費の抑制
(レイオフ等による人員調整)

② 営業拠点の統廃合
(拠点展開の最適化)

③ 事業の再編
(M&A子会社)



北米における事業再編

「Merit Travel」

- ・リテール店舗20店舗を全て閉鎖
- ・ロイヤリティ部門に資源を集中
- ・Red Label Vacations との
経営統合を推進

海外における旅行事業

アフターコロナの展開

◎ リアル旅行の対応、再開に向けての準備

- ・各国の国内旅行に注力

トルコ → 2020年6月からローカルマーケット（B to B）で、国内旅行や渡航可能な国際旅行を手配

ベトナム → 国内の座席供給量はコロナ前に戻っており、国内出張手配や日本人駐在員向けの近郊ツアーを販売

- ・オンライン航空券販売の強化

バン格拉ディッシュで9月にローンチし、11月には国内線チケット売上高が1億円を突破

アフターコロナに向け、インド、マレーシア、トルコでのオペレーションをスタート



◎ その他の取り組み

- ・自治体や日系企業の海外進出支援

HIS日本と連携し、三重県産のお茶をアゼルバイジャンで加工し、ドイツをはじめとする欧州への輸出を展開

タイ → アイリスオーヤマ製品の販売、学研の教室運営など

- ・人材派遣

日本国内の労働力不足解消を目的に、ブラジル・バン格拉デシュなどから日本へ人材を派遣（業種：宿泊業、農業ほか）

インターネットビジネスの強化

新規事業へチャレンジ「リモートトラベル・旅革命」 新たな収益源の確保を目指す

◎ オンラインエクスペリエンス事業 ～ネット世界で新たな価値創造～

・新しい需要の創出

トラベル スキルシェア Liveコマース → 3本柱で展開

リアル旅行との共存、オンライン旅行体験からリアル旅行へ（標準化）
パンフレット媒体化、旅前からのマネタイズを実現する可能性
旅行弱者（年配層、経済面など）へのアプローチ

・圧倒的なポジショニングの確立

商品数×オリジナリティ×品質×新テクノロジー×プロモーション
→ HISオンライン（トラベル/スキルシェア/Liveコマース）でしか出来ない新しい体験

	2020年 11月時点	2021年 計画
商品数	750 コース	2,000 コース
体験 人数	3万人超	30万人



インターネットビジネスの強化

・ 大好評のオリジナル商品一例

トラベル



世界5都市同時中継！世界一周ライブツアー
～ハワイ、インド、ケニア、トルコ、ラスベガス～



星空ガイドが案内する世界遺産熊野古道
オンラインで星空観測

スキルシェア



インド占星術・手相バーチャル占い
25年で5万人を占う、日本でも話題の占い師



©2020 H.I.S. Co., Ltd. IR Div.

Liveコマース



チーズ熟成士・久田恵理さんによる
チーズを試食しながらのオンライン・セミナー

法人事業 大好評のウェビナー

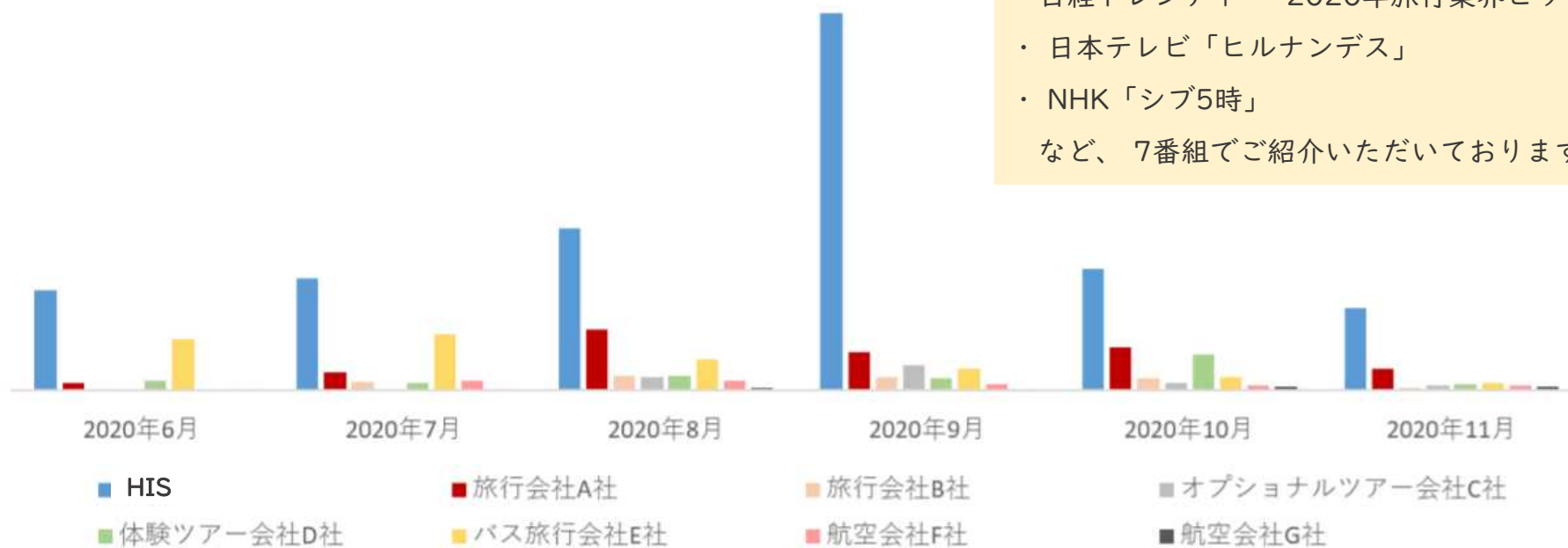
【日中オンラインセミナー】

北京モーターショー2020 ライブ中継

～注目の新エネ車、自動運転、モビリティなど～

インターネットビジネスの強化

・ポジショニングの状況（競合他社との比較）



<多数のメディアに登場>

- ・日経トレンディ 「2020年旅行業界ヒット商品」
- ・日本テレビ「ヒルナンデス」
- ・NHK「シブ5時」

など、7番組でご紹介いただいております

インターネットビジネスの強化

新規事業へチャレンジ ～ EC物販 ～

◎ 【From the WORLD】 をオープン

“よりすぐりのスポット” から “よりすぐりのモノ” を
“よりすぐりのストーリー” に沿って、サイト上で紹介し販売いたします

第1弾 「バリ島」 でスタート

第2弾 「トルコ」「タイ」「世界のワイン」 をテーマにリリース予定

第3弾 「メキシコ」 マヤ刺繍等のオリジナルブランド商品開発

◎ アメリカ 【Umamikit】 をオープン

日本の食文化を米国在住者に紹介する新規事業として、日本食ミールキットの販売を開始



from the WORLD

—よりすぐりを世界から—



タイ
ヒヤシンスバッグ



日本初輸入の“体に良い
ワイン” 「The Wine Dr」



メキシコ
ワラチェ 革紐サンダル



第1弾 おせち料理

インターネットビジネスの強化

◎ 【地球旅市場】の刷新



とは

元々、海外旅行顧客へのお土産販売サイト

≡ クローズドマーケット

ターゲット絞らず

「食品」「飲料」「酒類」「生活雑貨」「化粧品」「家具」「インテリア」
など、アイテムを増やし

→ オープンマーケットへ刷新

2,800商品から、3,500商品へ拡充



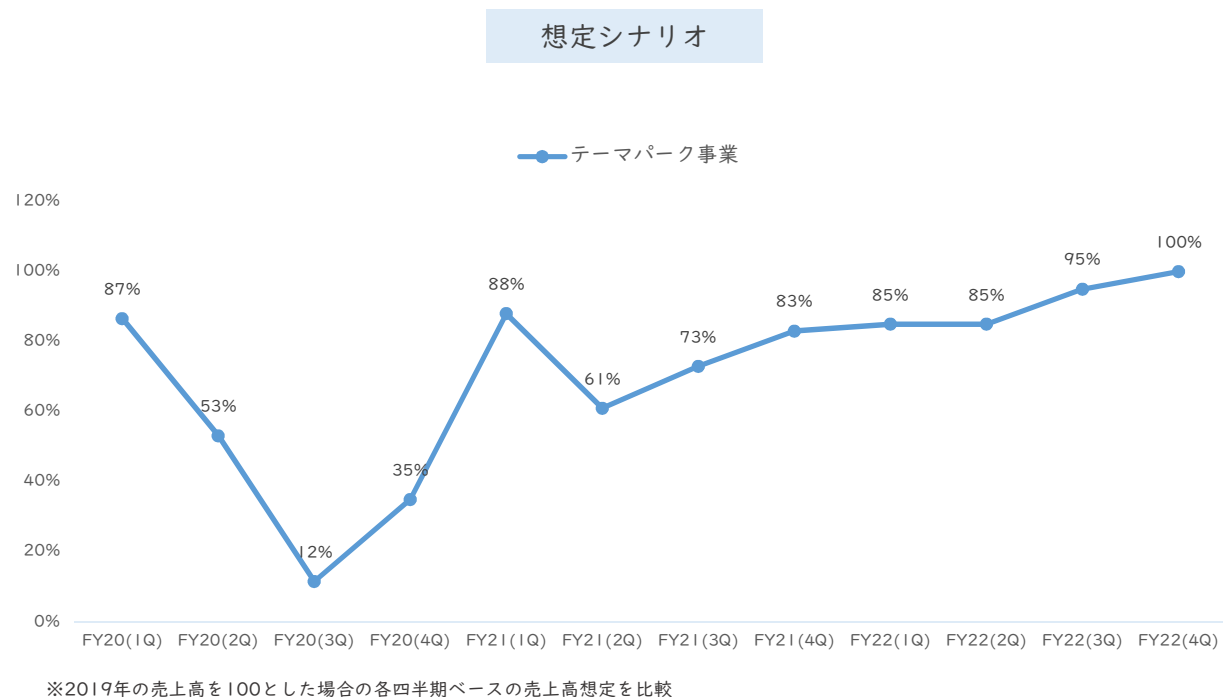
テーマパーク事業

- 「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、お客様に安心して楽しんでいただけるよう引き続き防疫体制を徹底。
- 今後の感染拡大再発による懸念は残るものの、GoToキャンペーン等の活用による集客強化を図り、大きく業績回復を目指す。

(百万円)	FY20 1Q	FY21 1Q予想	前期差
売上高	6,447	6,600	152
営業利益	644	1,430	785
EBITDA	1,166	2,050	884

現況と見通し

- ・緊急事態宣言以降、移動自粛等により一時的に大幅な需要減となったが、解除後は着実な回復基調を辿り、既に19年水準まで回復。
- ・感染拡大に伴う入場制限や閉園等の対応を余儀なくされる可能性あり。



テーマパーク事業 ハウステンボス

日本一広いテーマパークの強みを生かした、オンリーワンのシーズナル連動イベントの強化

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
											

街全体もシーズナル仕様に



ステージショー



ラッピングバス



オーロラのアンブレラストリート



花火ショー

©2020 H.I.S. Co., Ltd. IR Div.

新登場アトラクション

『探偵テンボスと謎じかけの王国』

19世紀ロンドンの探偵物語の世界観の中で楽しめる全く新しい謎解きアトラクションが登場！日本一広いテーマパークであるハウステンボス全体を使った、街歩き型謎解きゲームです。



激流ラフティング ～恐竜島の大冒険～

ボート型のライドに乗り、迫りくる恐竜を避けながら、激流を駆け抜けるアトラクション。水や風の演出とダイナミックな動きでスリル満点の冒険をお楽しみいただけます。



新エリア誕生



テーマパーク事業 ラグーナテンボス

ラグナシアにアスレチックパーク「変な森」新登場 2021年春オープン



立体アドベンチャー ドキドキ砦

城を守る巨大な城壁型アスレチック

約 200 個のブロックから構成されたコースの中に
たくさんのアイテムを取り入れたアスレチックアトラクション。

※イラストはイメージです

立体迷路 ワクワク城

丘の上にそびえ立つ5階層の巨大迷路

約 300 個のブロックから構成されたコースを
上下左右、縦横無尽に動き回りながらゴールを目指す
複層型巨大迷路アトラクション

※イラストはイメージです

更に、「目玉の大型イベント開催」21年春 予定

ホテル事業

- 投資計画を見直し、需要動向を見据えた優先順位の再設定を実施。
- グループシナジーの強化、BtoBの拡大を図り、当期はEBITDAベースでの黒字化を目指す。

(百万円)	FY20 1Q	FY21 1Q予想	前期差
売上高	3,811	1,700	▲2,111
営業利益	311	▲1,200	▲1,511
EBITDA	731	▲440	▲1,171

現況と見通し

<海外ホテル>

各国の出入国規制等に左右され、一部で規制解除の動きも見られるものの、19年水準までの回復は22年の想定。

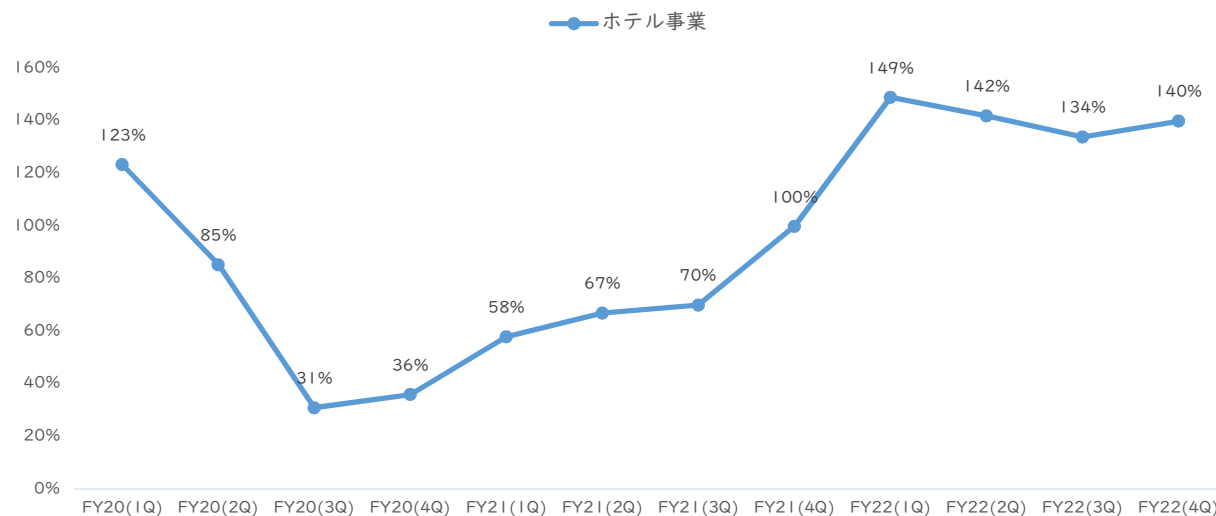
<国内ホテル>

・緊急事態宣言以降、移動自粛等により一時的に大幅な需要減となったが、解除後はレジャー需要を中心に堅調に回復している。

・GoToキャンペーン終了に伴う反動減や感染拡大に伴う再度の緊急事態宣言等の影響を受ける可能性あり。

・オリンピックの開催方針による機会損失の可能性あり。

想定シナリオ

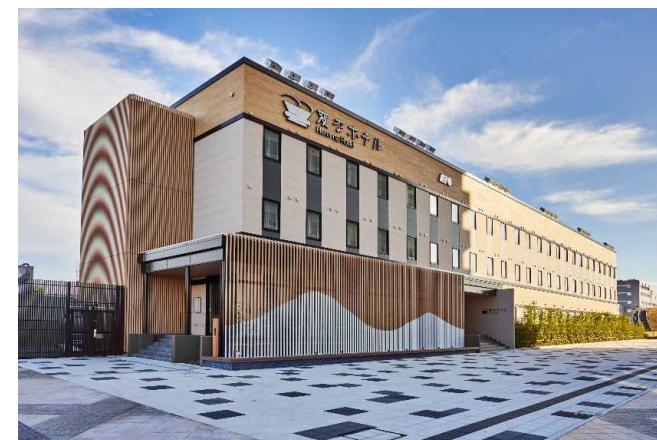


※2019年の売上高を100とした場合の各四半期ベースの売上高想定を比較

ホテル事業

◎ 今後開業予定

ホテル名	所在	開業予定日
変なホテル 小松駅前	石川県	2020年12月
ニューヨーク	アメリカ	2021年夏
変なホテル ソウル(仮)	韓国	2021年夏
VISONホテル	三重県 多気町	2021年夏
カッパドキア	トルコ	2021年秋
変なホテル 仙台(仮)	宮城県	2021年秋
タシケント	ウズベキスタン	2021年末
伊良部島	沖縄県	2022年夏
鹿児島	鹿児島県	2022年 予定
名古屋	愛知県	2022年 予定



「変なホテル 小松駅前」12/24オープン

九州産交グループ

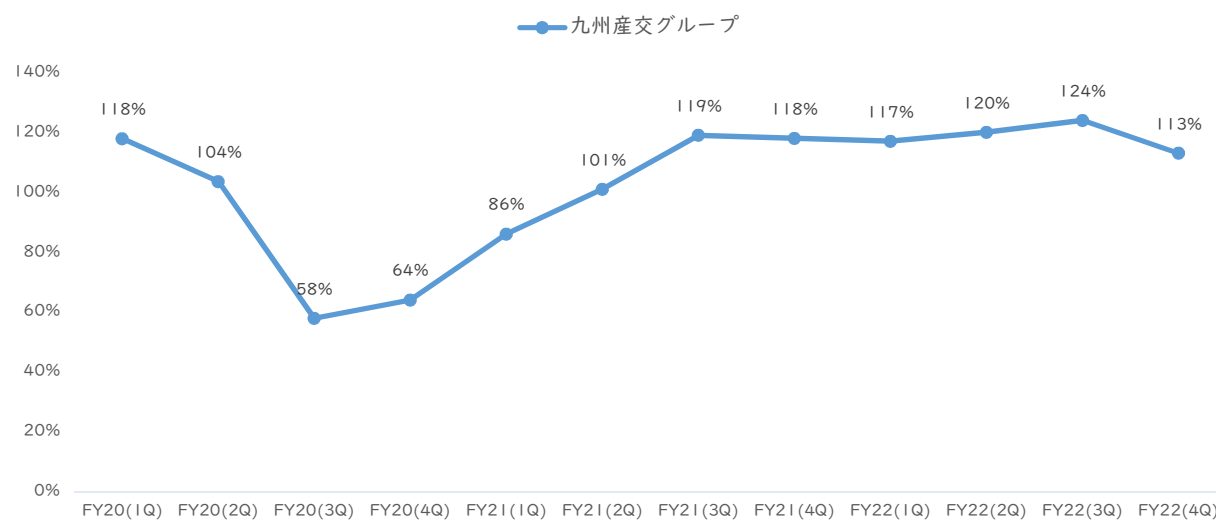
大型商業施設「サクラマチクマモト」を中心とした地域の活性化を目指す。

(百万円)	FY20 1Q	FY21 1Q予想	前期差
売上高	6,934	5,000	▲1,934
営業利益	316	▲350	▲666
EBITDA	801	230	▲571

現況と見通し

- ・ 緊急事態宣言以降、移動自粛等により一時的に大幅な需要減となったが、解除後はレジャー需要を中心に堅調に回復している。
- ・ バスの輸送人員は、前期比70%台まで回復している。
- ・ GoToキャンペーン終了に伴う反動減や感染拡大に伴う再度の緊急事態宣言等の影響を受ける可能性あり。

想定シナリオ



※2019年の売上高を100とした場合の各四半期ベースの売上高想定を比較

エネルギー事業

電力小売事業は、引き続き更なる契約数増加による大幅な成長を見込む。

発電事業では、為替や燃料価格の変動要因を考慮し、4機ある発電機の稼働調整を重点に進める予定。

(百万円)	FY20 1Q	FY21 1Q予想	前期差
売上高	6,291	7,600	1,308
営業利益	268	3	▲265
EBITDA	289	33	▲256

現況と見通し

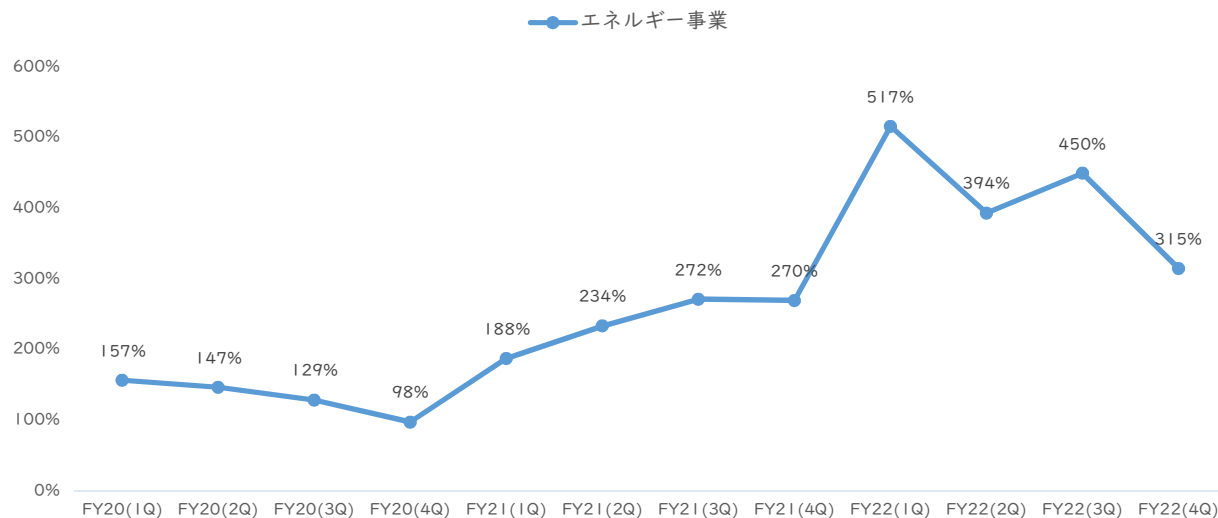
<電力小売事業>

- ・緊急事態宣言以降、一時的に大口顧客の需要減や営業活動が鈍化したが、既に計画通りの状況に戻っている。
- ・感染拡大に伴う再度の緊急事態宣言等の影響を受ける可能性あり。

<発電事業>

- ・緊急事態宣言等の影響により、発電所の建設に遅れが生じたものの、11月より試運転を開始。
- ・経済活動の停滞により、発電燃料の生産が滞り在庫が枯渇することで燃料価格が高騰する可能性あり。

想定シナリオ



※2019年の売上高を100とした場合の各四半期ベースの売上高想定を比較

エネルギー事業

◎ 電力小売事業

- ・ グループ各社との協業を推進
- ・ CM、WEB等の媒体を積極的に活用
- ・ 各種キャンペーンを通じた個人客の裾野拡大
- ・ 代理店の拡大、適正化を図る



◎ 発電事業

- ・ 11月より試運転を開始
- ・ RSPOのセグリゲーション (SG) 方式の認証油のみを使用



HIS角田バイオマスパーク

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

本資料には、当社の将来の営業活動、業績の見通し等の将来予測に関する記述が含まれています。かかる将来予測に関する記述は作成段階において入手可能な情報を基に当社経営陣が判断したものであり、様々なリスク要因や不確実性を持ちます。実際の営業成績や財務状態は、これらの将来予測において示唆されたものとは、著しく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述を過度に信頼することのないようご留意下さい。また、当社は新しい情報、将来の事象又は新たな知見に応じて将来予測を変更する責任を負うものではありません。



本資料に関するお問い合わせは、弊社IR室までご連絡ください。